JIC インフォメーション

第 186 号 2016 年 1 月 10 日
年 4 回 1･4･7･10 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義　http://www.jic-web.co.jp
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪・ロシア留学デスク：〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号　TEL：06-6944-2341

ロシア・旧ソ連 国際交流誌

あけましておめでとうございます
本年も JIC（ジェーアイシー）をよろしくお願いします!!

С Новым 2016-ым Годом!!

年末に届いたクリスマスカードより

http://www.jic-web.co.jp

《JIC スタッフより新年ご挨拶》
日露交流の拡大めざして、2016 年も頑張ります・・・・・・2P
日ソ共同宣言 60 周年、ウラジオストクでアライバル・ビザ制度開始、障害者差別解消法施行、バリアフリーツアー、…

《日露アニメ学生サミット始末記》
アニメが切り開く日露交流の新機軸・・・岡部芳彦・・・・14P
アバチャ火山 登山記（第 2 回）・・・・・・・・白井秀治・・・・20P
ロシアからモンゴルへ再訪（第 2 回）・・金井義彦・・・・23P

JIC では、Ｊクラブ（JIC 友の会）会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICスタッフより新年のご挨拶

謹賀新年 2016 Happy New Year!

本年も JIC 国際親善交流センターおよびジェーアイシー旅行センターを
よろしくお願い申し上げます。

＊1 月号恒例のスタッフ新年あいさつです。

旅行業を通じた文化交流、社会貢献

伏田　昌義

旅行業界は、昨年も『インバウンド景気』に沸きました。訪日旅行客は、前年比 5 割増の 2000 万人に迫る勢いで、ついに訪日外国人数が、海外渡航日本人数を上回りました。中国人客の「爆買い」が話題を集め、訪日旅行需要をどう取り込むかが、日本経済活性化の一つのカギとなっています。久しくギクシャクしていた中国、韓国との関係も昨年後半から改善に向かい、アジア諸国からの訪日客はこれからもまだまだ伸び続けるだろうと期待されています。

しかし、ヨーロッパでは、IS（イスラム国）によるパリ同時テロや中東難民の大量流入が EU 域内の自由移動を妨げる方向に作用しています。反イスラム感情が、ヨーロッパの伝統的な寛容精神を蝕んでいるようです。ロシアでは、エジプトでの航空機テロやトルコとの紛争によって、海外旅行客が激減しています。

やはり、平和な環境でなければ観光・旅行業は発展できないのだとつくづく思います。私たちは、ロシア・旧ソ連諸国という限られた範囲ではありますが、旅行を通じた人々の往来を活発化し、文化的・人的交流を下支えすることで、平和な国際環境の実現をめざしたいと思います。

本年 4 月から『障害者差別解消法』が施行されます。これは 14 年 1 月に批准された障害者権利条約に基づいて整備された国内法ですが、画期的なのは、障害者差別には「不当な差別的取り扱い」だけでなく、「合理的配慮を提供しないこと」も含まれているとしている点です。これは、障害を理由とした差別的取り扱いだけでなく、障害者が利用しにくい施設や設備、障害者の存在を意識的・無意識的に排除している慣習や文化などを含めて『社会的障壁』ととらえ、合理的配慮を提供することでこれを解消していこうという考え方によるものです。

旅行業界では、すでに高齢者や障害を持った方の旅行相談や旅行手配を通じて個別に対応してきましたが、法施行を前にして、さらに誰もが旅行を楽しめる環境を整備するために業界あげて取り組むべく、関心が高まっています。

2012 年で日本の人口は約 1 億 2750 万人でした。これに対して身心に障害をもった人の数は約 650 万人（5%）。しかし、これに後期高齢者（75 歳以上）約 1500 万人を含めると人口比は一挙 17%に高まります。ここで大事なことは、バリアフリー観光推進機構の中村元理事長が言われるように、障害者や高齢者をも一つのマーケットと捉えて、今まで旅行に出かけるのをためらっていた人たちを顧客に取り込み、旅行サービスの充実と市場の拡大をはかることです。そのような視点が、障害者や高齢者に対する「合理的配慮」をごく当たり前のもの、むしろ積極的にやるべきこととして後押ししてくれるのではないかと考えます。

ジェーアイシー旅行センターではバリアフリー観光推進機構と協力して、外国人客向けのバリアフリー・インバウンド旅行を拡大するために、社内に専門スタッフを置いて、取り組みを開始しました（7 頁参照）。これからも「新しい旅行のかたち」を作り出すために、努力を重ねていきたいと思います。

今年は、1956 年に日ソ共同宣言が締結されてから 60 周年にあたります。共同宣言によって日本とソ連との戦争状態が終結し、国交回復と日本の国連加盟が実現しました。しかし、米ソ冷戦の下で、ソ連との間には「北方領土問題」が未解決のまま残され、これが日本をアメリカ陣営に強力に繋ぎとめる役割を果たしました。ソ連崩壊後その外交関係を引き継いだロシアとの間で、経済交流、文化交流は以前より格段に進みましたが、戦後 70 年たっても平和条約が結ばれておらず、領土問題の最終的解決はなされていません。

プーチン政権は、2012 年 9 月ウラジオストクでの APEC（アジア太平洋経済協力会議）以降、「東方（アジア）シフト」を強め、日本や中国、アジア諸国との政治・経済関係の拡大に取り組む姿勢を見せていますが、ウクライナ問題をめぐる欧米の経済制裁に日本が同調したことで、平和条約交渉は足踏み状態を続けています。

日ロ平和条約交渉が急進展するのは当面難しいとしても、対立を先鋭化させず、対話を継続させることが今は重要だと思います。その意味で、私たちは、ロシア旅行やロシア語留学の分野で文化的・人的交流を維持・拡大し、日ロ関係の改善に微力ながら、今年も取り組んでいきたいと思います。

APEC 開催から３年。再び注目を集めそうなウラジオストク

杉浦　信也(JIC 東京)

ウラジオストクで APEC（アジア太平洋経済協力会議）が開催されたのが 2012 年 9 月。プーチン大統領は 14 年 12 月の年次教書演説で 1862 年～1900 年および 1904 年～1909 年の期間に有していたポルト・フランコ（自由港）の地位をウラジオストクに戻すとの構想を発表し、昨年 10 月には早くも「ウラジオストク自由港」法が施行されました。この法案の実施により企業は自由貿易ゾーン内の設備や原料など輸入品に対する免税や税制面での優遇を受けられるようになります。とりわけロシアへの旅行者にとって大きくかかわるのは、入国時のアライバル・ビザ制度の導入です。現地の報道によると、本年１月１日からウラジオストクの空港などの入国ポイントで８日間の滞在ビザが発給される簡易ビザ制度が実施されるそうです。現時点では詳細は明らかになっていませんが、事実上、ビザ無しに近い条件で、空港で即座にビザが取得できるようになれば、日本からの渡航者の増加に大きく貢献するものとなりそうです。

ウラジオストク金角湾横断橋

おりしも、ウラジオストクでは昨年１１月にエンターテイメント・ゾーン「プリモーリエ」の一角にカジノ併設の５つ星ホテル「ティグレ・ド・クリスタル」がオープンし、今年度内には市内に「ハイアットリージェンシー・ウラジオストク・ゴールデンホーン」や、ルースキー島の「沿海地方海洋水族館」（一つの建物内の展示水量としては世界最大級の 25,000 トン）が次々と開業する予定です。さらに沿海地方オペラ・バレエ劇場が、サンクトペテルブルグのマリインスキー劇場（芸術監督ワレリー・ゲルギエフ）の支部になることも決まり、公演プログラムの充実が期待されます。

沿海地方オペラ・バレエ劇場

ロシアというとモスクワやサンクトペテルブルグといった西部地域ばかりイメージされてきましたが、アメリカであれば西海岸と東海岸の都市の名がすぐに思いつくように、「東方のロシア」として日本から近距離にあるウラジオストクが捉え直されてもよさそうです。（写真撮影はいずれも JIC スタッフ）

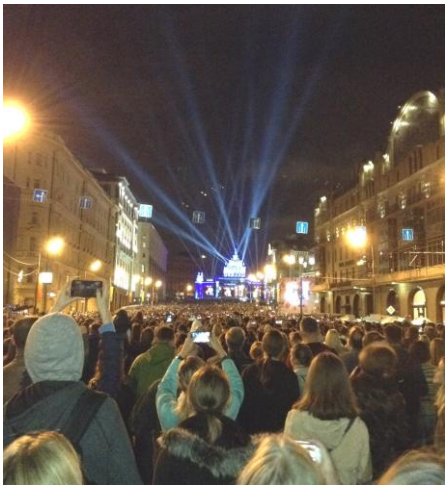
「モスクワの日」

竹村　貢(JIC 東京)

昨年 9 月に出張でベラルーシとロシアに行きました。9 月 5 日はモスクワに滞在。その日はたまたま「モスクワの日」でした。モスクワの日は毎年 9 月の第 1 土曜日に行われ、今回は 1147 年の建都から数えて 868 年目でした。

朝は雨が降っていましたが、人工的に雨雲を操作したらしく、昼ごろには雨が止みました。街中いたるところでいろんなイベントが行われており、中心部のトゥヴェルスカヤ通りではピョートル１世の時代からソビエト時代まで、各時代の衣装を纏った人たちが、踊っていたり、一緒に写真を撮ってくれたり、また、剣でキャベツの試し切り体験が出来たり、火薬玉作りをしたり、巨大な回し車の中を人間が走っていたりと、とても盛り沢山でした。

ルビャンスカヤ広場では、15:00 から 22:30 まで無料コンサートが行われました。コンサートには、グリゴーリー・レップス（Григорий Лепс），ポリーナ・ガガーリナ（Полина Гагарина），ディマ・ビラン（Дима Билан），エアロスミスなど大物歌手が揃って出演し、無料ということもあり、大勢の人が聴きに来て、黒山の人だかりになっていました。みんないいところから見ようと、電柱に登ったり、建設現場脇の歩道にあるトタン屋根に登って落ちたりしている人もいました。



コンサートが終わると、クレムリン側から花火が上がり、とてもきれいでした。日本にもこんな日があったらいいなぁと思いな

がら、帰路につきました。

ということで今年の「モスクワの日」は 9 月 3 日の土曜日になります。みなさん是非、行ってみてください。

旅人の実感を大切に

神保　泰興（JIC 東京）

おかげさまで昨年は、お客様のご案内（添乗）、また現地視察、さらにはプライベートも合わせると、例年になく国外に出る機会が多くありました。渡航先も、ロシアにとどまらず、中国、香港、マカオ、韓国、またフィンランドとスペインにも足を伸ばしました。

私たちの旅行業務は、普段はデスクワークが大半ですが、添乗であれプライベートであれ、実際に現地に渡航し、お客様の傍らに寄り添うことで、また、自分自身がお客様（旅行者）の立場になってみることで、はじめて気づかされることが多くあります。海外旅行は、移動を伴いながら、少なくとも数日間を一

緒に過ごすことになるので、その間の衣食住をはじめ、体調管理や娯楽など、人の生活の営みのすべての要素を含んでいます。東京のオフィスに座ったままでは、それを実感することも、気づいて先回りして対処することも、なかなか難しいものです。とりわけ、今年の夏は2歳になる三男を含んだ家族全員で、今はやりのLCCを使い香港・マカオを旅したのですが、本能のままに振る舞う幼子たちを海外に連れていくことで、私自身がだいぶ鍛えられた気がします。

私たちの取扱地域はロシアとCIS加盟国を中心とした周辺国ですが、それ以外の国々にも足を踏み入れることで、ロシアの常識とそれ以外の国々との差に気付きにくくなっていることに、はっとさせられることが多くあります。今年も機会を見つけて、お客様と共に、またプライベートでも旅人となり、その実感を大切にしながら、自身の「気づき」と「感性」を磨き、よりお客様に満足いただける手配師を目指して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

ヨーロッパへ行くなら…

佐藤　早苗（JIC 東京）

昨年 11 月、バルセロナに留学中の娘さんに会いに行くという友人に便乗して、バルセロナ、マドリッド、トレドに行ってきました。友人は大学の同級生（ロシア語科出身）で 2 人が選んだのはもちろん？ 「アエロフロート航空」。

でも選んだ理由は単にロシアの航空会社だから、ではありません。アエロフロートは何といっても「価格が安く」、「乗り継ぎが非常に良い」のです。いくら価格が安くても、南回りで 24 時間以上かけて行く気力も体力もない私達にとって、モスクワでの乗り継ぎ時間が 2 時間というのはとても魅力的でした。

思い起こせばアエロフロートでモスクワに行くのは約 25 年ぶり。当時は機材も古く、パーソナルスクリーンもありませんでした。今では他の航空会社に引けを取らないくらいに進化したと噂には聞いていたのですが、実際に乗ってみると本当にその通りでした。機材は新しいし、キャビンアテンダントは愛想が良く、サービス精神旺盛。3回出た機内食はどれも美味しかったです。アメニティーサービス（スリッパとアイマスク）もあります。アルコールは、以前は有料だったようですが、今は無料で飲み放題（笑）。

ヨーロッパ旅行をお考えの方、アエロフロートはヨーロッパの多くの都市を網羅しているので、ぜひ一度乗ってみられては如何でしょうか。

バルセロナでは多くのロシア人観光客を目にしました。それもそのはず、モスクワ－バルセロナ便は毎日3便も就航しているそうです。街中で偶然ロシア語の看板を見つけ、思わず入ったお店は現地に住むロシア人向けのお店で、ロシアの食材が豊富に売られていました。次の目的地がマドリッドでなかったら、黒パンや冷凍ペリメニを大量に買って帰りたかったです。

帰国したのは、パリの同時多発テロ事件が起きた次の日でした。同じヨーロッパ、それも隣国でのテロに背筋が凍る思いがしました。このような痛ましい事件が二度と起こらないことを願います。

平和を願って

中林英子（JIC　東京）

休暇をどこで過ごそうかなあ・・・、考えていた矢先のことでした。フランス同時多発テロのニュースが流れました。数年前に

初めてパリを訪れた時、平和で観光客にも親切でなんて安全な場所なんだろうという印象でした。まさしく憧れのフランス、華の都パリでした。もちろん、今も大好きで憧れの街です。そのようなところでテロが起こるとは信じられませんでした。

私がロシアに住んでいた頃はまだ、経済、社会とも安定せず、テロ事件が続いた時期がありました。旅行者であれは、今は物騒だから旅行を中止しよう、延期しようということもできます。しかし、現地に住んで生活している場合はそういうわけにはいきません。ずっと家にこもっているわけにもいかないし、いつもと同じように通勤、通学をしなければいけないのです。大使館から、「公共交通機関を使わないように」という案内メールが来ても、現実的に常にタクシー使って移動するわけにも、家にこもっているわけにもいきません。当時、不安を抱えながら生活した時期を思い出すと、他人事とは思えない事件で、本当に心が痛みました。

海外旅行の業務に携わっていると世界情勢には敏感になります。その影響も受けます。

生活や気持ちに余裕ができてこそ、旅行に行きたい思うことでしょう。旅行などの娯楽は生きるために必ず必要なものではありませんが、日々の生活を豊かに充実したものにします。海外旅行は、送り出す国、受け入れる国の両国が治安面だけでなく、経済的、政治的に平和で安定していなければ成り立ちません。このような仕事に携わっているなら、より強く平和を願わなければと改めて感じました。

（写真はパリのノートルダム寺院）

10 年ぶりのウラジオストク

小西　章子（JIC 大阪）

昨年は久しぶりにロシアを訪れる機会をいただきました。行先はウラジオストクだったのですが、なんと丸 10 年も行っていませんでした。

久しぶりに訪れたかの地は 10 年前とはまるで違う雰囲気になっていました。旅行者や留学生にとってずいぶん優しく、滞在しやすい街になったように思います。街全体が明るくなり、入りやすいお店やカフェが増え、金角湾沿いのライトアップなどで夜も美しい景色が楽しめます。一方で、昔ながらのわちゃわちゃした中央広場の市場も健在。ずらっと並んだチョコレート、パンの山、野菜、肉、魚・・・。市場をぐるっと見て回るだけでワクワクします。また来たいと思えるようなウラジオストクでの滞在でした。実験的にではありますが、いよいよ今年からウラジオストクで 8 日間までの滞在に限り、ビザを事前取得せずに訪問できるようになると発表されています。カジノも昨年オープンしましたし、今年は水族館もできるとのこと。ますます魅力が増す街にぜひ行ってみてくださいね。

今年もロシア留学を希望する方々のご相談窓口として大阪でお待ちしています。ぜひお気軽にお問い合わせください。これまでは、留学する学生さんの目線で不安な点や楽しみ事をアドバイスするよう心がけてきましたが、そろそろ学生さんより親御さんに近い年齢・・・、学生さんと同列に並ぶのは厳しすぎると自覚し始めたので、これからはそれにプラス、保護者の視点も意識しつつ、「頼れる留学のおかん」になれるよう精進しようと思います。今年もよろしくお願い致します。

トドと背比べ

ロシアの冬～新年とクリスマスのイベント

チステリーナ・イリーナ（JIC モスクワ）

世界中にヨーロッパのクリスマスマーケットはとても有名で、毎年、国内外から多くの観光客が集まります。

2012 年、ストラスブールの人たちの協力で、モスクワでもクリスマスマーケットが初めてオープンしました。このイベントはたちまちロシア人をとりこにし、モスクワ市政府はマーケットの拡大を決めました。

12 月中旬から 1 月 10 日まで、市内 20 ヵ所以上でマーケットが開かれます。木の小屋の店で、羊毛の靴下やスリッパ、プリャニク、ハチミツなどを売っています。また、絵葉書やクリスマスツリーの飾り作りなど、いろいろなマスタークラスが行われ、コンサートも開催されます。モスクワの中心部にあるマーケット会場で「パスポート」を受け取り、市内各所で全てのスタンプを集めたら、お菓子がもらえます。

毎年、マーケットの新しいテーマが選ばれます。2015 年のテ

ーマは「世界の昔話」でした。例えば、プーシキン広場は「くるみ割り人形」、アルバート通りは「アラジン」、クズネツキーモスト通りは「ピノキオ」を紹介していました。スタンプをもらうため

には、昔話に関連した質問に答えなければなりません。外国人には英語で簡単な質問（たとえば、“Where are you from?” “Do you like football?”など）を出して、スタンプを押します。

冬、モスクワの町を歩き回るのは寒いでしょう。マーケットでは美味しいクリスマスのごちそうを食べて、グリューワインやホットティーを飲んで体を温めます。

モスクワの冬は長く、朝はなかなか明るくなりません。夕方はすぐに暗くなってしまい、太陽の顔を見ることができません。12 月に入って、道路が綺麗なイルミネーションで飾られるようになると、モスクワっ子はとても嬉しくなります。

モスクワ市長によると、2016 年のクリスマスマーケットには 12 ヵ国から代表者が参加します。ヨーロッパの国だけではなくて、日本やインドも参加します。今年のマーケットはこれまでで最大の新年イベントになるそうです。

2016 年のクリスマスマーケットのモットーは、「夢を持つことを恐れるな。夢を持てば夢が叶う」です。本当にいいモットーだと思います。今年も、皆さまの夢が叶うように祈っています。

2016 年あけましておめでとうございます。

ロシアの結婚式

キリチェンコ・オリガ（JIC 東京）

昨年 9 月のお休みの時、ロシアの結婚式に参加しました。結婚式は 10 年ぶりです。煩わしいことが多くて、楽しいこのようなイベントをすっかり忘れていました。

ロシアの結婚式は日本の結婚式とかなり違いますが、同じように時間や労力、お金が結構かかります。しかし、ロシアの結婚式はただのセレモニーではなく、大変面白いプロセスです。結婚式の計画は、まず日取りの選択から始まります。ロシアは広い国です。いろんな地方の季節や特徴を考慮に入れてその日を選択します。結婚式の一番多い季節は春と夏で、秋と冬は少ないのですが、しかしながら、私が参加した結婚式は 9 月でした。なぜかと言うと、ウラジオストク市で行われたからです。ロシア沿海州のウラジオストク市は日本海に面した都市ですが、寒気の季節が西ロシアより比較的遅く来るので、9 月は旅行、休暇、結婚式等のために非常にいいシーズンであり、「ベルベットの季節」と名付けられています。

私たちは現代社会に住んでいますが、ロシアの結婚式は今でも昔からそのまま残る習慣や迷信と密接に繋がっています。ロシアの迷信について言えば、多くの場合良くないことを避けるために存在します。例えば、5 月には結婚式しない方がよい。これはロシア語の「5 月」は月の名前以外に「苦労」と言う意味も持っているので、5 月に結婚したら結婚生活で苦労すると言われているからです。また、結婚指輪の表面は鏡のように滑らかでなければ結婚生活もスムーズになりません。ウエディングドレスを結婚式までに花婿に見られたら災難です。でも、ウエディングドレスを着ている花嫁を見ると幸いです。

ロシアの結婚式は賑やかで楽しく、お祝いは通常二日間続きます。結婚式の前に「花嫁の購入」と言う面白いセレモニーが行われます。花婿は花嫁を親の家からただでもらうのではなく、購入しなければなりません。花嫁の兄弟や姉妹、親類が集まって花嫁を高く売るようにいろんな工夫をし、花嫁の代金としてお金からお酒、お菓子、 さまざまな技（ダンス、歌、絵を描く等）まで、花婿にいろいろなことを要求します。つまり、花婿は花嫁を獲得するために、セレモニーに参加するお客様や親類を満足させなければならないのです。

無事に花嫁を獲得すると、区役所に届け出て、結婚式は終了します。次の楽しみは披露宴です。披露宴は、ミュージック、ダンス、コンクール、乾杯、花火など、楽しいプログラムで一杯です。このような賑やかで楽しい雰囲気の中で、新婚夫婦の友達、兄弟や姉妹、親類の誰かが、こっそり花嫁の何か大事な物（靴、手袋、花嫁のベール等）を盗み出します。それを返してほしければ、花婿は相手が希望するものを渡さなければなりま

せん。一番楽しくて、みんなが好きなことは、花嫁を盗んでしまうことです。

新婚夫婦は夜 12 時に別れの挨拶をし、ホテルまたは花婿の家に帰りますが、披露宴は深夜まで続きます。翌日、多くの場合バーベキューパーティとしてお祝いが続きます。これで、新婚夫婦は結婚生活で初めて自分達自身でお客様を迎えます。そして再びご馳走、ミュージック、ダンス、いろんなコンクール、乾杯が続きます。ロシアの結婚式は楽しいのです。

人は陽の光と生きている

山下　篤美（JIC サンクトペテルブルグ）

2015 年 8 月より、サンクトペテルブルグで連絡員を務めさせていただいている山下篤美です。

1998 年の夏に始まった私のロシア暮らしは、極東のウスリースクを皮切りに、ウラジオストク、カムチャツカを経て、5 年前に、北の都・サンクトペテルブルグへと移ってきました。

この原稿を書いている今、サンクトペテルブルグは、もうじき冬至を迎えようとしています。一年で、最も日が短く、暗い季節。この時期は、ついつい睡眠時間が長くなり、明るくなるのを待って、午前中ぼ～っとしていると、一日があっという間に終わってしまいます。極東暮らしでは、それほど意識しなかった「陽の光と暮らし」ということを、この地ではより強く感じさせられます。初夏、白夜のころは何だか意味もなくソワソワ、ウキウキし、一方秋口から冬に向かう頃になると、何もかもが億劫で、どうにも体が動きません。この地にいると「陽の光と生きている」と思わずにはいられないのです。

共に暮らす小学生の娘二人は、暗闇の中を登校し、暗闇の中を下校してきます。次女のほうは、一人で帰らせるのが少々不安なので、学校へ迎えに行きます。そんな夕方4時、ちょっと足を延ばして、ネフスキー大通りに出てみます。すると、すでに青い闇に染まり始めた街をイルミネーションの光が彩っています。その小さな一つ一つの光に目をやり、忙しそうに行きかう人々を眺めていると、寒さのせい？あるいは年齢のせいでしょうか？わけもなく、涙が滲み、街の人々が愛おしく思えてくるから不思議です。そして、また私自身も、この街に暮らすものの一人として、何とか今年も無事に一年を終えられそうなこと、そして、少しばかりの希望をもって新しい年を迎えられることに、誰かしら感謝をしないではいられない･･･そんな気持ちが胸にしみじみと湧いてくるのです。

皆様にとって、新しい年が平和で、そして人の温かさを感じられるものでありますように･･･サンクトペテルブルグの街角よりお祈り申し上げます。

外国人観光客へのバリアフリーツアー バリアを感じさせないおもてなしを

田村　美紀（JIC 東京）

2015 年 11 月よりインバウンド部の新メンバーになりました、田村美紀です。日本バリアフリー観光推進機構という民間 NPO 法人に所属していて、障がい者や高齢者を含む外国人観光客のツアーサポートを担当しています。私自身も障がい者ですが、ほんの数年前までは道で困っている人を見かけても声をかける勇気がなくて見て見ぬふりをしていました。何をどうしたらいいのか、どう声をかけたらいいのか、障がい者は気の毒で接し方がわからない、ヘタに話しかけて気を悪くされても困るし…、などと難しく考えて、避けていました。

他人に対してそんな考え方をもっていたのですから、当然、自分自身に対しても偏見をもっていて、一人前にできないくせになるべく人の手を借りず、カッコ悪いと思われないようにと、そんなことばかり考えていました。日常生活はともかく、旅行となるとたくさんの不安が押し寄せてきます。観光を楽しむはずが気付けば歩くことに対する不安ばかりがつのって、「行きたいけど行きたくない」、それが素直な気持ち。多くの場合、旅行や楽しい行事への参加を妨げているのは不自由な体ではなくて、それを抱えている心の方なのだと思います。

（忘年会にて、左が筆者）

障がい者や高齢者に限らず、こうした不安を抱える人々の荷物を少しでも軽くして、旅を楽しんでもらえるようなサポートを心がけています。まだまだバリアフリーとは呼べない日本ですが、設備を整えるだけがバリアフリーではありません。バリアを感じさせない日本ならではのおもてなしを感じてもらえる観光地をたくさん紹介しますので、ぜひご相談ください。

多様であるということ

岡本　健裕(JIC 東京)

ベラルーシを漢字で白露と書いたりしますが、「白露時代」という場合は国とは関係がなく、詩人の北原白秋と三木露風が活躍していた頃のことを指すようです。

彼らが残した作品は飲みやすい劇薬みたいなものです。その副作用で私たちは、見たこともやったこともないことが、なぜだか思い出になってしまうのですから。

騙されてはいけません。だいたい、雪の降る夜は楽しいペチカなどと、日本人がまず一生経験しない特殊な情景が歌われているのに、その巧みな言葉遣いに押し切られて、ペチカは楽しいのねと思ってしまうでしょう。これがもういけない。ほらだんだん、自分にも十五で嫁に行った姉やがいたような気がしてきます。というのは冗談で、この話は、詩人でないほうの白露（ベラルーシ）にも似たような副作用があるという、もっと怪しげな主張へ飛躍するための前振りでした。ごめんなさい。

私はソ連に行ったことがありません。それなのに、去年初めてベラルーシに行ってみたら、あるはずのないソ連時代の思い出がそこにあったのです。

この国にはベラルーシ語という公用語があります。ミンスクの地下鉄とか、お役所の看板とか、ここぞという公的な場面ではベラルーシ語が大切に使われています。

でも、それだけなんです。巷ではむしろロシア語ばかり聞こえてきます。テレビ番組もほとんどロシア語。私が視察した大学も、表札はベラルーシ語なのに、校内で使われているのはやっぱりロシア語でした。実用上、ベラルーシ語は少数派なのです。でも決して冷遇されてるわけではない。かと言って民族意識を発露、称揚するほどでもない。じゃあ何なのか。

どうもこれはソ連らしさを演じるための舞台装置らしい、と考えると途端に合点がいくのです。かつて社会主義リアリズムの時代、盛んに用いられた「形式においては民族的、内容においては社会主義的」というテーゼをご存知でしょうか。難解な言葉ですね。これを無理矢理、目の前の現実に当てはめてみましょう。「表面上はベラルーシ、中身はロシア」。だいぶ雑な解釈ですが、私はこれでやっと理解できたような気がしました。そうしたら急に、この道はいつか来た道、ああそうだよ、という調子で、脳が次々に思い出を捏造しはじめたのです。

モスクワだとこうはいきません。表面も中身もロシアだからです。ＢＤＨＸ（ヴェーデンハー）にある諸民族友好の噴水を見ても、やっぱりあれは過去の遺物です。しかしミンスクの地下鉄は強烈なリアリズムで、にせものの記憶を上書きしてきます。本物っぽいソ連はここにあるぞ、と。

本物っぽい、というのは実際その通りで、ベラルーシはソ連そのものではなく、「ソ連テーマパーク」というほうがふさわしい世界です。明るく幸せそうな市民、安くて豊富な生活必需品、

ベラヴィア本社（ミンスク）

ノーヴィー・アルバート通り（モスクワ）

反体制派の存在を許さない統治、KGB の監視と良好な治安、手入れの行き届いた街並は塵ひとつなく清潔、とくれば、往年の『今日のソ連邦』誌の演出にありそうな、なんだかよくできた光景です。

ディズニーランドには、夢をこわさないように、堅く秘密に閉ざされたバックヤードがあります。私はほとんど確信していますが、ベラルーシにも同じようなものがあって、それはロシアです。こんなふうにバックヤードを国外へ切り離すのはうまいやり方です。ソ連では、現実を全て内側に溜め込んだあげく、絶望的に不健全なユートピアの暗部で始末するしかなくなりました。収容所とか、粛清とかです。

私の妄想によれば、夢と思い出の国は、銅やアルミの電解精錬のような方法で成り立っています。崩壊してぐちゃぐちゃになったソ連の壺も、電極を差し込めば、まだまだきれいな結晶が陰極に析出してくるのです。これがベラルーシだとすれば、ロシアはもちろんディナーモで、容器に電圧をかけながら、陽極の下で沈殿物を回収しつづけています。（妄想ですよ。）

ひび割れだらけの壺を、新しい名前の容器に作り変えられるかどうか、その容器の中に何を収めることができるかについて、今ロシアが戦っているところです。それは世界が多様であることを許容できるかどうかの攻防、でもあります。壺から出たり入ったりしていたウクライナが最近、簡単に戻れないところまで行ってしまったので、新しい容器の壁は意外な場所から先に完成しそうです。

多様な世の中にはどこかで分断が生ずるものです。不幸なことです。それなら多様な世の中などいらない、というのもひとつの道理ですが、そういう世界では私たちは廃業しなければならないので支持できません。違っていること、わかりあえないことに、人は惹かれるのです。確かめに行きたくて、人は動くのです。

ちょっとくらい傷ついても、垣根を越えてみましょう。危ないといって先に垣根を撤去したがる人は、安全保障のことも、親善交流のこともまるでわかっていません。からたちのとげはいたいけど、みんなやさしいから大丈夫です。私は、さわったことはないんですけど、白秋さんがそう言ってましたから。

ヴィーゲランという彫刻家

井上 沙弥香（JIC 東京）

昨年ノルウェーに行った際、とても素敵な彫刻家に出会いました。彫刻家の名前はグスタフ・ヴィーゲランといいます。ノルウェーでは非常に有名な彫刻家なのですが、オスロ市から援助を受ける代わりに全ての作品をオスロ市に寄贈するという契約を交わしたので、彼の作品はノルウェー国外ではあまり有名ではありません。私自身もフログネル公園を訪れて初めて彼の名前と作品を知りました。

彼の彫刻をはじめて目にして驚きました。それは石で造られた硬い彫刻に違いなかったのですが、生身の人間に直接蝋でも被せたのかというぐらい、石の下でほんとに息をしているのではないかというくらい、その彫刻は“生きていた”のです！

フログネル公園はオスロの中心地に位置するとても大きな公園です。公園は、一番西にある誕生を表したとされる輪になった像から、モノリッテン（人間で折り重なってできた円筒の石塔）、生命の木（生まれてから死ぬまでをひとつの木とともに表した噴水を囲む像）、そして公園内の小川にかけられた橋の両側に人間の様々な感情を表した像たちを一直線で結ぶ形で構成されています。橋を渡りきると公園の出口があり、少し先には教会が見えます。これは人間の誕生から死までを表現するために意図的にこのような配置にしたのではないかといわれているようです。

それぞれの彫刻にはタイトルも解説もありません。先入観なしに、自分の感性だけで像と向き合い思いを巡らすことができます。特に印象的だったのは、橋の最後にある父親と娘が遊ぶ像と、母親が小さな子どもを抱き上げる像です（私には親子の像に見えましたが、見る人によっては親子でないかもしれません）。年齢や家族構成がすごく私の家族に近く思えたので特に印象深かったです。人間の正の感情だけではなく、誰かを嫉妬する気持ちや、死の瞬間に生にしがみつき断末魔をあげる姿など、負の感情も圧倒的な表現力で表し、見るものを釘付けにする作品ばかりでした。興味がありましたら是非彼の作品を調べてみてください。

自由のパスポートを手に入れろ

金井 義彦（JIC 東京）

もう2度目のパスポート更新だから、この新年挨拶を書き始めてから10年くらいは経ってしまったという事だ。前回のパスポート更新時はまったくの無駄な挑戦、メリットの無い挑戦で、「パスポートを有効期限ぎりぎりまで使ってみる。限られた行ける国へ行く」というような事をしていて、パスポート有効期間残存半年を切っている時はロシアに行けないような状況だったりした。今年は、この新年挨拶が出る頃には早々に、パスポート更新手続きを進めているはずである。そもそも残存1年を切ってまだ間も無いというのに既に損している感がある。昨年夏にはロシアの3年間有効ビザを取得したのに、実際に使える期間はパスポート有効期間残存半年までだから10か月くらい。冬にはアメリカ渡航のためESTA申請の手続きをして2年間有効のはずなのに、このパスポートが切れたら無効になる。やっぱり損している。さらに付け加えれば、10年くらい使っていると増補したページでさえ余白わずかで、どこかの国の入出国スタンプが捺されてビザシールを貼る事のできるページがなくなってしまうのを気にしていなければならない。

（撮影地、沖縄）

さあ早く、真っ白いページでぴかぴかの、10年まるまる有効でどこにでも行ける可能性のあるパスポートを手に入れよう。もうどこへ行ったっていい、いや、どこへも行かなくたっていい。それくらいの自由な気持ちで今年を始めるのだ。そう、それくらい自由。

ネコの話

後藤 正明（JIC 大阪）

あっとゆう間に1年が終わり、2016 年になりました。

昨年の夏ごろから我が家にネコが出入りするようになりました。といっても、近所のノラネコです。1階のマンションのベランダをわがもの顔で通り抜けて行きます。ベランダには洗濯物を干している人もいますし、いろんな物を置いている人もいます。マンションも、ペットボトルなどを置いて（あまり意味がない）対策をしているのですが全く効果はないようです。

僕はあまり外に洗濯物を干したりはしていないので、「被害」はないのですが、困っている人もいるようです。反面、ごはんを与えている人もいるようで・・・そのあたりは世間で問題になっていることが、今住んでいるところでも起こっています。

小さい頃は、動物は好きではありませんでした。金魚や鯉などを飼っていたことはありましたが、特に自分が世話をしたこともなく、あまり興味はなかったです。まして、ネコなど全くといっていいほど興味がなかったものです。

しかし、我が家のベランダに時々出入りするようになって、ネコを見ていると・・・とてもおもしろいと感じはじめました。日曜の朝からニャーニャー鳴かれたり、何匹かで追いかけ合うドタバタ音を聞かされたりすると腹も立ちますが、ネコのいろいろな動きを見ていると癒されます。ごはんをあげたり、遊んだりは自分にはできないが、網戸越しにネコを見ていると自分の顔が自然と笑っていました。仕事から帰り、部屋でぼーっとしていて、ふっと外を見るとネコがこっちを見ている（笑）。今ではそれが、少し楽しみになっています。

ただ、困っている人がいるのも事実ですし、ネコにとってもこのままの自由さが幸せなのか、明りの向こうの部屋で人間と暮らしたいと思っているのか・・・そんなことを思いながら仕事が終わって、今日もベランダを見ています。

エルミタージュ美術館の警備ネコ

つまらないことを書きましたが、サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館の地下にはネコがたくさんいて、「警備員」の役割を果たしているそうですし、モスクワでは、世界でひとつしかないネコのサーカス「ククラチョフ猫劇場」もあります。

ネコ好きの方も、そうでない方も 2016 年は、是非、ロシア旅行へ！（笑） 最後になりましたが、今年も皆様にとって良い 1 年でありますように！

ときめく心、再び ☽

五十嵐　真夕（JIC 東京）

90 年代の少女漫画・アニメ史における名作と言えば、「美少女戦士セーラームーン」である。言わずと知れた伝説の漫画・アニメなので説明は不要だと思うが、星の守護を受けた女の子たちが戦士となって悪と戦う作品である。

武内直子先生の美麗なイラスト、可愛い登場人物、ストーリー展開…どれをとっても魅力的で、当時小学3年生だった私はセーラームーンの世界にすぐ魅了された。当時は男子・女子関係なく、この作品にはまっていた記憶がある（ちなみに私が一番好きだったキャラクターは、金星を守護星に持つセーラーヴィーナスこと愛野美奈子。可愛い！）。

中学、高校と進学し、漫画やアニメを見なくなってからも、ずっとこの作品が心に残っていた。モスクワ留学前には、毎週日曜日に早起きしてテレビの実写版を欠かさず見ていたし、留学中には、当時毎月1巻ずつ発売されていたコミックの新装版の「初版（シールつき）を必ず買って！」と日本にいる友人に頼んでいたりしていた。基本的には漫画も買わない、アニメも見ない私が、この作品だけは本当にずっと好きだった。

そんなセーラームーンが、2012 年の夏に 20 周年を迎えた。あの頃の少女たちがすっかり大人になった今、某大手玩具メーカーなどが、そんな元・少女たち向けにオモチャやアクセサリー、化粧品などを販売し始めたのである。30 代だったら買えるよね？という値段設定で。子供向けではなくて非常にハイクオリティで、大人であっても「欲しい！」と思ってしまう品々…。

ここに写っているのは私の所持グッズの一部なのだが、中央に写っているムーンカリスが、高額にもかかわらず我慢できずに買ってしまった品である。これはクリップケースになっていて、蓋を開けたところにある幻の銀水晶にクリップがくっつくようになっている。

ムーンカリスは、セーラームーンがパワーアップするときに使う。これが届いたのは昨年の8月末。忙しさがピーク状態で続いていた時期。説明書には「パワーアップできなくても当社では一切責任を負いかねます」としっかり記載してあったが、このクリップケースを使うだけで、私もパワーアップできそうな気がした。ああ、今年はどんな素敵グッズが発売されるのだろう…。セーラームーンによると、誰でもみんな胸の中に星を持っているそうだ。その星をきらきらと輝かせる、そんな一年にしたいと思う。ミラクルロマンス ☽

スマホで通販

白井　真理奈（JIC 東京）

昨今便利な世の中になりましたよね。スマホ片手にショッピングができる時代です。

まだまだ小さな子供がいる我が家では、子連れで落ち着いてゆっくり買い物するのはとても難しいので、普段からスマホで通販を利用しています。主に①通勤電車の中　②保育園のお迎え前の数分　③就寝前　にやっているのですが、これが「THE☆働くママの強い見方!!!」と言えるくらい、と～っても便利なんです。

2 歳半の我が家の双子はまだおむつの世話になっているので、大量のおむつを買わなければなりません。いつも段ボー

ル箱 4～5 箱をまとめ買いするのですが、自分で買いに行くことを考えたらこれだけでもとんでもない労力です。それを、ちょっとした時間に通販サイトで必要な物をポチっとするだけで、買い物に行く時間を大幅に削ることができるのはもちろんの事、ガソリン代もかからない、ポイントも貯まる、そして重くて大きな荷物でも数日後には玄関まで届けてくれるという、とってもありがたいサービスです!!

わが家のオムツマンズ

しかも、我が家の玄関は駐車場から階段を上がって 2 階部分にあるので、自分で荷物を運ばなくて済むのは願ったり叶ったり。(笑)

もちろん、おむつの他にも食品配達をしてくれる生協も利用しており、翌週届けてもらいたい食材をカタログ見ながらポチっとするだけ。この生協の便利なところは、食品以外にもおすすめの生活雑貨や育児関連グッズ、それに書籍や CD、ファッション雑貨など、取り扱い品数が幅広いので一度の注文ですべての買い物ができるところです。個別にお店へ買いに行くことを考えたら、時間のかかり方も断然違います。もともと買い物をするのが好きな方なので、洗剤等の日用品から自分用の通勤バッグにいたるまで、平日でも時間を気にせず気軽にショッピングができる「スマホで通販」は、今や私の楽しみのうちの 1 つ!!! きっとこれからもやめられません(´艸`)

あいさつで福を呼ぶ

小原　浩子（JIC 大阪）

毎朝、私は駅まで自転車でいく。最近私の乗り降りする駅では、無料の自転車置き場がどんどん減らされて、私がお世話になっている無料自転車置き場も飽和状態。私が駅に行く時間にはほぼすべての置き場が埋まっている。

そこで私は自転車置き場を整理しているおじさんに「おはようございます！」と元気にあいさつ。するとおじさんから「今日はその辺りに置いていってや～」と返事が返ってくる。おじさんが私の自転車を確認した後に「お願いします！」と声をかけ、置き場所を気にせず自転車を置いて駅に急ぐ。帰宅時に自転車を探すと、だいたい朝置いたあたりに整理されてきちんと置かれている。おじさんありがとう♪ 他の人はしらないが、私はその自転車置き場で、ぞんざいに扱われたことがない。

最近の自転車はずいぶん頑丈にできているが、混みあう自転車置き場では帰宅時に自分の自転車がどうなっているか心配になるぐらい、駅の自転車置き場はひどい混みようだ。かつて別の無料自転車置き場を利用していた時は、タイヤのリムが歪むほどひどく踏みつけられていたし、あるときは並んでいる他の自転車の上に横倒しに置いてあり、「誰がそんな怪力出してんねん！」と、唖然としたこともある。怒りのアドレナリンを自転車にぶつけないでほしい。まあ気持ちはわかるけど。

そんな飽和状態の自転車置き場で、お金をかけずに自転車をきちんと整理して置いてもらう方法が、あいさつなのだ。置き場で働くおじさんは市で雇われた人だが、仕事して当然と思われるのか自転車置き場の利用者でおじさんに声をかける人は少ない。たいていは挨拶もせず駅に急ぐ。私はおじさんを見つけて挨拶し、お願いします！と言うだけで特別な存在なのだ。

私はこのことを同じ駅を利用している誰にも教えない。もしみんながおじさんにきちんとあいさつして声をかけるようになったら、おじさんは若いきれいな女の子の自転車を優先して、私の自転車などぞんざいに扱われるに違いないのだから。

2016 年も元気なあいさつで、福を呼び込めるようにしたいものです。本年もよろしくお願いいたします。

なぜ山に登るのか

モロゾフ・デニス（JIC 東京）

昨年を振り返ると、ロシアをめぐる国際情勢はものすごいスピードで変化していきましたね。エジプトでの旅客機テロ事件、トルコとの全面対立、海外旅行から国内旅行への大シフトなど、わが社にとってプラスになるような出来事はほとんどありませんでした。今年は気を引き締めて、少なくなってきている訪日ロシア人客をとにかく「逃がさない」ように、努力していこうと決意しています。

昨年の個人的に大きな出来事と言えば、山登りにのめり込んでしまった事ですね。これまで、四国 88 か所を歩いて回ったり、大小の山を登ったりしてきましたが、それはあくまでも「観光」の延長でしかなく、目的地への道に立ちはだかる障害物でしかありませんでした。登りきったら、確かに気持ちがいいし、視界が開けるし、達成感もありましたが、山は僕にとってあくまでも通過地点でした。それがある日、旅の「目的地」に変わりました。きっかけというか、「起爆剤」になったのは今でも BS TBS の土曜日 22 時に放送されている番組「日本の名峰・絶景探訪」です。真冬の北アルプスに挑戦する俳優の姿、息をのむ美しい景色、そして言葉では表せない御来光の瞬間。

たまたまこのチャンネルのボタンを押したのが運のつき。もう画面から目を離せませんでした。リモコンのボタンは僕の脳裏のどこかにあったスイッチとつながっていたようで、番組が終わった瞬間に僕が無意識にぼそっと言った言葉は、「行きて

～。山に行きて～」でした。

会社には山を極めている男がいます（白井秀治氏）。山道具のイロハや登山のコツを教わったり、山行のアドバイスを受けたりしながら、僕のハイカーライフがスタートしました。高尾山、丹沢、木曽駒ケ岳、旭岳、甲斐駒ケ岳、千丈ケ岳、富士山・・・気が付いたら日本百名山の 9 座を含め沢山のピークを踏みました。そして今年は八ヶ岳で本格的な冬山デビューをし、夏は南アルプスや北アルプスにも足を運びたい。

なぜ山に登るのか？答えはまだ見つかりません。ただ、山を見ると、山に呼ばれている気がしてなりません。

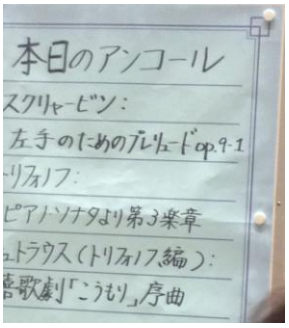
「あぁ、山に行きて～」

秋の夜の夢

百瀬　智佳子（JIC 東京）

新年おめでとうございます。今年も皆様、元気にアクティブに過ごされる年となりますように。

子連れ生活も 10 年がたち、気がつけば長らくご無沙汰～というものが多々あります。中でも懐かしいのが美術展やコンサート。と思っていた昨秋、クラシックのコンサートに行く機会を得ました。ダニール・トリフォノフ氏、ロシアはニジニノブゴロド生まれのピアニストです。ほんの一音にも背筋がゾクゾク、渋い選曲からはっちゃけたアンコールまで、大興奮・大満足のひと時でした。



またこの時、初めてファツィオリ社のピアノの音を聴くことが出来ました。いまや名高いコンクールの公式ピアノでもあるファツィオリは、私の年齢より若いイタリアのピアノメーカーです。その生音たるやきらきらと透明に輝く超絶な美しさ。クラシック演奏には好みが分かれるかもしれない透明感ですが、絶妙に響かせ弾きこなす演奏者の力量に、益々感銘を受けました。

その時ふと、10 年ほど前、子連れ生活に入る前に通い詰めたジャズピアニストのライブを思い出しました。感謝感動した瞬間を。“欧州で何百年もかけて完成形となった楽器を、日本のメーカーが作り（その時はヤマハ）、ドミニカ共和国生まれのピアニストが、私の目の前で弾いている”。様々な人の努力や巡りあわせのもとに今の幸せな時間があるんだなあ、皆様、ありがとう・・・と胸が熱くなったのです。そして今回もまた、演奏者も楽器も曲も、あまりに素晴らしくて。この時代の今夜、ここにいられて本当に良かった。10 年の間に赤ん坊から同行者へと成長した息子の横で、しばし感慨にふけりました。

ライブハウス（未成年不可）への同行は、もう 10 年ほど待たねばなりません。願わくはその折にもまた、ドミニカ生まれの彼に会えることを。ピアニストは 70 歳を超えますが、あれから 20 年以上の人生を経て熟した演奏を成人祝いに聴けたらなんて素敵だろう、と夢想しています。

癒しの日帰り旅 in 大洗

田邊　由紀子（JIC 東京）

あっという間に 2015 年が過ぎてしまいましたが、終盤とても良い思い出を作れました。

11 月下旬、来日したモスクワ事務所のイリーナさん、東京本社の神保さん、岡本さん、プラス可愛いゲストさん達と、茨城県の大洗に日帰りで行きました。

出発早々、私が起こした予想外のハプニングにより、イリーナさんとの合流が大幅に遅れてしまい、お昼ごろに都心から大洗へ出発！茨城方面への高速道路は、連休にもかかわらず渋滞がなかった事が救いでした。道中、名添乗員の準備して下さった DVD 鑑賞タイムがあり、大洗が舞台の『ガールズ＆パンツァー』という学園アニメを初めて見ました。これが何とロシアと関係していたのが驚きでした。そこに出てくるプラウダ高校では、保有する戦車がソビエト製で、ロシア語がちらほら聞こえ、更に「♪カチューシャ」まで歌われて、妙な親近感が湧いてきました。このアニメ映画が公開される直前だったので、話題の場所に先駆けて行ってしまったようです。

大洗に到着後は、まずは港近くで人気の「かあちゃんの店」で腹ごしらえ。どれも美味しそうで大いに迷い、かあちゃん御膳というお刺身とかき揚げのセットにしました。これがすごいボリュームで、とても全部は食べきれないと判断した私は、イリーナさんと岡本さんに少しお裾分けして何とか完食。

次に向かうは、一番楽しみにしていた大洗水族館。営業が 17 時までだったので、ギリギリの入場でしたが、すぐにイルカショーを観ることができ、コンパクトに場内を回れました。メインのサメたちも、貸し切り状態で見れて、お気に入りのクラゲやペンギンを見たり、癒しのひとときでした。

さらにめんたいパークと、日帰り温泉にも立ち寄ってもらい、

イリーナさんともゆっくりお話しできて、充実の一日でした。

大洗は、数年前にあの津波の被害を受けた場所とは思えないほど、魅力的な場所でした。

「モテル男子」養成中

白井 秀治（JIC 東京）

誠に勝手ながら、今年も我が子のことを書かせて頂きます。

双子ちゃんの誕生から 2 年半。あんよとおててをピコピコ動かしていた 2013 年の誕生年。なんとなく歩けるようになってきた 2014 年の夏。2015 年秋には言葉が出てきてボチボチと二語会話ができるようになってきました。そんな成長過程を見ていると親としてはどうしても将来のことを夢見てしまいます。

そうです。私は親ばか。成長する我が子が同性からも異性からもモテモテになってもらいたいと切に願っているのです。

「モテル男子」と考える場合、100％偏見に任せ想像すると、やはり勉強はもちろん、スポーツや外遊び、図工、音楽が得意だと皆から「キャーキャー」言われるというイメージがあります。

では 3 歳にならない我が子に、「何を今！？」親として伝授できるか！？

勉強は本人が「やりたい」と言うまで放っておいて問題ありませんが、楽器や外遊びの基礎は今のうちに…と言うことで、おもちゃの太鼓セットと私のサックスを与えたところ、楽しむ楽しむ。ひたすら楽しんでくれます。テレビの子供番組の歌のコーナーに合わせてきちんとドラムでリズムを取り（シンバルも乱打）、マウスピースを通してきちんとアルトサックスの音が出せました（解放音のみですが）。これは驚きでした。

ふふふ。私は親ばか。我が子達に音楽と楽器の楽しさを…と、すでに企んでおります。

しかし楽器だけだとインドアになりがち。男の子は寒空の中でも走り回ってナンボです。そしてモテル男の子は元気がなければ！そんな訳で、高尾山ハイキングに家族で出かけましたが、まだ体力不足で頂上からずっと手前でギブアップ。それでも 30 分位は登山道を歩きましたが、とりあえず、登山は却下。少々早かったかもしれません。

ならば森の中でキャンプなんて如何でしょうか。早速、富士山の樹海にあるキャンプ場に連れて行ったところ…、お昼は樹海を探検、食事の準備では焚火で遊び、夜はヘッドライトでキャンプ場内を散策。とりあえず 2 泊 3 日のテント生活クリア。

ふふふ。私は親ばか。我が子達に外遊びを…と企んでいるところ、なんと！子供たち自ら「きゃんぷ・いきたい」「テントン・ねんね（テントでねんね）」と連呼し始めております。

きたぁ～！君たちはパパのハートを鷲掴みしておりますぞ！

断言する！君たちはモテル男の子の数ある要素のうち確実に一つをクリアした！

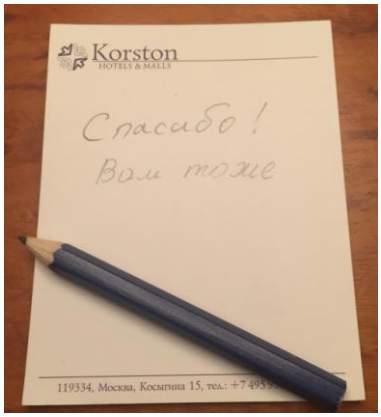
この場をお借りして「今年はもっと親ばかになる！」と独り言を言わせて頂きます。

腰痛とわたし

柳沢 昭子（JIC 東京）

ジムやヨガなど、気になったものを始めては挫折の繰り返しだった私が、最近、続けることができているのがピラティスというエクササイズです。ピラティスは、ドイツ人のピラティス氏がリハビリのために開発したエクササイズで、筋肉を使う動きや背骨を意識した動きが多いです。私はぎっくり腰を起こして以来、慢性的な腰痛になってしまいました。お恥ずかしい話ですが、腰痛持ちの私にとっては東京からモスクワなどの長距離フライトは、いかに腰痛をしのぐかが大きな課題です（笑）。きっと同じ悩みを持つ方が少なからずいらっしゃると思うのですが、逃げ場のない飛行機の中での腰痛は本当につらいものです。

ピラティスは私にはあっていたようで、ピラティスを始めてからは、ぎっくり腰を起こしそうなほどの腰の痛みを感じることがなくなりました。どんなに優れたエクササイズも、続けなくては結果が出ないのは当たり前ですが、腰痛が改善されると、さぼりがちになってしまいました。ですが、また気持ちを入れ替えて、現在、エクササイズを再開しています。東京からモスクワの長距離フライトも楽々と過ごせるような強靭な身体を手に入れて、2016 年もたくましく楽しく過ごせたらと思います。みなさまにとって本年も良い年となることを祈っております。



写真：2015 年の私のベストフォト。モスクワのホテルに宿泊した際、チップと“スパシーバ（ありがとう）”のメモを書いて客室に置いておいたら、“バム トージェ（こちらこそ）”とのお返事が。

昨年 10 月 21 日、日本ロシア協会（鳩山邦夫会長）主催の「ロシアを知るセミナー」（東京）にて、9 月にモスクワで行われた『日露アニメ・オタク文化学生サミット』の報告が行われました。以下は、学生サミットを企画・指導した神戸学院大学の岡部芳彦さん（経済学部准教授）の講演録です。「今時の文化交流はこういうふうにやらなくちゃ！」という見本を見せられたような、面白くかつ楽しい報告でした。岡部准教授と日本ロシア協会の了解を得て、掲載させていただきます。（編集部）

アニメが切り開く日ロ交流の新機軸

日露アニメ学生サミット始末記

岡部　芳彦（神戸学院大学・准教授）

本日は、日露アニメ・オタク文化学生サミット始末記というテーマで、この学生サミットがどのように始まり、ロシアでどう実行され、どう感じさせられたかということをお話しさせていただきます。

今日の狙いは3つあります。1つは、いま海外で日本のサブカルチャーであるアニメやゲームが「クールジャパン」と総称されて流行っています。それがロシアでどのように流行っているかという事例から理解を深めていきたいということ。2 つ目は、ロシアや外国の若者は、何をきっかけに日本を知るのか、外国の若者にとって日本という国の入口はどこなのかということを紹介したい。3 つ目は、私の学生たちは、このサミットの企画が採用されるまで、全然ロシアに興味を持っていなかった学生たちです。まったくロシアを知らなかった若者たちをロシアに連れて行くとどうなるか。実はそこに日露交流の新しいスタイルのヒントがあるのではないかという話をさせていただきたいと思います。

学生サミット実施までの準備と経緯

私が担当している経済学部では 2 年生の 9 月からゼミが始まります。例年、20 名ほどの学生が私のゼミに来ます。初めにくじ引きで日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国、ロシアと5つの班に分けます。だいたい各4～5名です。地域は選べないがテーマは何を設定してもいいことにして、それぞれの地域経済を調べさせています。ロシア経済班は男女 2 人づつの班です。リーダーに選ばれた女子学生がかなり重症のアニメ・オタクで、ロシアでも日本のアニメが流行っていることを知り、「ロシアにおける日本アニメブームを通じた日露経済交流の可能性」という仰々しいタイトルをつけて、ロシア人はどんなアニメや漫画を見ているのかということを半年かけて勉強しました。調べてみて、ロシアでも日本アニメが人気なのはわかったのですが、アニメや漫画を読んでいるのは一体どんな人たちかということに興味をもってきたようです。

「政府に予算を出していただきます！」

で、少しロシアの空気を味わせてやりたいと思い、昨年 12 月に大阪ロシア総領事館のクリスマスパーティに彼らを連れて行ったのです。ラチーポフ総領事（当時）に研究内容の資料を渡したら、総領事はこんなことを言いました。「ロシアの若者は日本のアニメが大好きだ」、「日露両国政府ともアニメを通じた交流の重要性を意識しているけれども、残念ながら手が回っていない」、「日本外務省の日露青年交流事業に応募してみたらどうか」。

パーティの席上でもあり、その時は、私はほとんど聞き流しておりました。ところが年明けにロシア班のリーダーと副リーダーの二人の女子学生が私の研究室にやってきて、「日露アニメ・オタク文化学生サミットというのをやりたい」と言うのです。

私　;「どうやってやるの？」
学生;「モスクワに行きます」
私　;「お金はどうするの？」
学生;「政府に出していただきます！」「日露青年交流事業の予算でやります」

20 歳前後の女子学生にしてはよく考えたなと思いました。それで彼らが作った計画書を少し手直しして外務省所管の日露青年交流センターに送りました。まぁ、おそらく採用されないだろうと思っておりました。ところが、1 週間ほどして電話がかかってきました。「このプランはなかなか面白いので、内々に採用の方向で動いています」。私、かなりびっくりしま

した。何故かというと、実は、まだ何も考えてなかったからです（笑い）。申請書は出したけれども、ロシア側の誰を相手にサミットをやるのかという肝心なことを考えていませんでした（笑い）。

困った時は、われわれの世代はインターネットでググる（Google 検索する）しかありません。Google にひたすら日本語とロシア語と英語で、「ロシア」「アニメ」「アニメクラブ」などと打ち込んでみたら、モスクワ大学の心理学部が 2013 年に東北大学とアニメ・セッションをやったという記事が出てきました。それですぐに心理学部に E-mail を送りました。3 日くらいで返事がきて、「ウチでやりましょう」。案外すんなりとカウンターパートが見つかり、それで日露青年交流センターに採用されたという次第です。学生たちは「ロシアのアニ・ヲタに会える」と、この期待感はもう半端ではなくて、このころからワクワクしておりました。これが今年 2 月頃のことです。

「先生、SP の漫画を読んだことないんですか？」

3 月に入って、日露友好議員連盟の会合で、アニメサミット開催の報告をさせていただきました。会が始まる前に、友好議連会長の高村元外相（自民党副総裁）が会場に入ってきた時に、学生リーダーの横岡さんに、『あの人知ってる？』と聞いたら『知りません』と言います。今時、政治に興味のない学生は政治家の顔など知りません。ところが、次の一言にびっくりしました。

学生；「でも、あの人は偉い人だと思います」
私　；「どうしてそんなことがわかるの？」
学生；「先生、SP（Security Police=要人警護の警察官）がついてるからです」
私　；「どうして SP なんて知ってるの？」

驚いて聞いたら、彼女は真顔で、『先生、SP の漫画を読んだことないんですか？』と言われてしまいました（笑い）。その時一つ気付いたことは、若者の知識の源というのは、もう漫画かアニメなんだなということです。

学生サミットを宣伝するために、学生たちといろんなところに出かけました。せっかくのアニメサミットなので、会う人にその人の似顔絵を渡そうということで、イラストを描きました。

まずは 5 月の日露文化フェスティバルのオープニングパーティに学生リーダー2 人をご招待いただきました。ナルイシキン・ロシア下院議長には残念ながら会えなかったのですが、シュビトコイ・ロシア大統領府特別文化代表に彼のイラストを差し上げました。6 月 10 日のロシア・ナショナルデーにはロシア大使館に行き、アファナシェフ大使にもイラストを渡しました。「よく似ている」と喜んでいただきました。

「文化侵略と思われぬように！」

「カラマーゾフの妹」で江戸川乱歩賞をとった作家の高野史緒さんに、学生アニメサミットの話をしたら、「ちょっと意見がある」と言われて、3 つアドバイスをいただきました。5 月末頃のことです。

一つは、アニメ・オタク文化というテーマだと、どうしても日本が主役でロシアが受け手になる。クールジャパンがわかる、ゲームやアニメが好きな人だったらいいが、そうでない年配のロシア人からすると、何かモヤモヤ感が残り、「文化侵略」されたと感じる人が出てきかねない。もしかしたら、強い反感をもたれるかもしれない。

二つ目に、日本のアニメが優れており人気があるということは、アニメに興味のない人でも知っていることだが、相手の国にも花を持たせる機会を絶対入れる必要がある。アニメサミットであれば、日本アニメばかりではなく、ロシアアニメも是非取り上げてほしい。

三つ目は、ロシアの若者もおそらく興味があるのは日本アニメの方で、ロシアアニメにあまり興味がないかもしれないが、相互交流という意味でロシアのアニメも取り上げるのだということを丁寧によく説明してほしい。

「碧志摩（あおしま）メグ」をめぐる騒動

当初は「ああ、そうですか」くらいの受け止め方をしていたのですが、その後、オタク文化について考えさせられる事件がありました。三重県志摩市の公認キャラクター「碧志摩（あおしま）メグ」をめぐる騒動です。2016 年 5 月に本物のサミット（主要国首脳会議）が志摩市で開かれます。サミットに合わせて志摩市が公認キャラクターを作り、碧志摩メグという名前を付けて WEB サイトに公開しました。ちょっとセクシーな海女さんという感じのキャラクターです。これを見て、女性蔑視で不快だということで、地元で反対運動が起こりました。ところが、逆にインターネット上では「オタク文化を馬鹿にするな」というカウンターの署名活動が起こり、賛否入り乱れてちょっとした騒動になりました。つまり、日本のアニメカルチャーの基本要素である「萌え」という文化に対する許容度というのは、これは年代や性別によって違うということがわかったわけです。

この事件が起こった時、高野さんはそういうことを言ってたんだ、「反感を買う」というのはこういうことだったんだなとわかり、私もゼミで学生たちに対応策を考えさせました。学生たちからは次のような案が出てきました。

9 月の 3 日と 4 日に学生サミットをやったのですが、4 日の本会議の前に、沖縄の楽器・三線（サンシン）をやっている副リーダーの女子学生が、巫女のコスチュームで三線を演奏して、ロシア国歌を歌おうというアイデアが一つ。もう一つは、サミット期間中の学生リーダーの挨拶はすべてロシア語で行う。もちろん彼らはロシア語学習者ではありません。

挨拶を私がロシア語で書き、カタカナに直して、学生たちはひたすら呪文のように唱えて覚えました。さらに、本会議でのプレゼンテーションの一つは、ロシアアニメの歴史について話す、しかもこれをロシア語で行うということにしました。また、サミット開催期間中は全員コスプレだったのですが、一人はロシアアニメのコスプレをしようという話にもなりました。ここまでしておくと、ロシアに対する敬意も十分に伝わるのではないかと考えた次第です。

公認バッチは「萌え国旗」

公式グッズであるバッチも作りました。デザインは「萌え国旗」です。これは日本アニメの特徴なのですが、モノを擬人化するという手法があります。インターネットで探すと、国旗を擬人化して公開している人がいました。「ロシアの国旗はまだ描いてない」というので、わざわざ描いてもらって、その使用許可をもらいました。この萌え国旗をつかって、日露アニメ・オタク文化学生サミットの公式バッチと旗を作りました。

8 月には、新聞社 3 社と地元の TV 局 2 社に来てもらって記者会見を開き、また、関係先への表敬訪問をしました。高村自民党副総裁にはすでにお会いしたので、もう一つの与党である公明党の山口那津男代表のところに挨拶に行きました。『君たち好きなマンガは何？』と聞かれて、学生たちは、ワンピースとか、ナルトとか、いろいろ答えておりましたが、最後の学生が「こち亀」（こちら葛飾区亀有公園前派出所）と言った途端、山口代表は葛飾区が選挙区なものですから、大喜びで声をあげて、非常に和やかな話合いになりました。

日本のアニメカルチャーを語る上でこの政治家を無視してはいけないというわけではありませんが、

麻生財務大臣を表敬訪問

麻生太郎財務大臣ともお会いしました。財務大臣室の本棚には、もちろん日本の財政・金融の専門書もありましたが、本棚中央に「ゴルゴ 13」のコミックが鎮座しておりまして（笑い）、さすが麻生さんと学生たちは感動しておりました。8 月の大変忙しい時期にもかかわらず、1 時間半もアニメ話で盛り上がりました。学生リーダーの横岡さんは『ワンピース』という漫画・アニメが大好きなのですが、麻生大臣もワンピースが好きだということで、2 人して少なくとも 30 分はワンピースの話をしていました。私は横で聞いていてもまったくわかりませんでした（笑い）。麻生さんは 74 歳。横岡さんは 21 歳です。孫くらい年齢の離れた若者と共通の話題はなかなか見つけにくいものですが、麻生さんと横岡さんは、お互い対等に同じ漫画の話をしているのです。世代間の分断が叫ばれている日本で、世代間で縦につながる共通の話題はアニメと漫画しかないのではないかと感じさせられました。

さあロシアへ！　モスクワでのアニメ学生サミット

以上が準備です。次にモスクワでのアニメ学生サミットの様子をお話ししたいと思います。

今年の日露青年交流事業はアニメの企画が3つありました。その一つは、7 月にサンクトペテルブルグで行われたポップカルチャーイベントで、アニメ声優の上坂すみれさんを中心にプロのアイドルグループを送って、まだあまり本物を見たことのないロシア人たちに日本のアニメ作品を見せました。これはプロの本物を見せるということで意義深い企画だったと思います。それに対して、私たちの学生サミットはどんな特徴があったかというと、これはただのアニメ好きな日本の学生たち、アマチュアの学生たちがモスクワに行って、自分の好きなアニメについて時間が許す限りひたすら語るという企画です。「好きなことを語る」、これはアニメ・オタクの王道です。

「これ、怒ってはりますかね？」

ロシアでアニメ学生サミットがどのように実施されていったか、時系列に申し上げます。

9 月 2 日にモスクワに到着し、翌 9 月 3 日がサミット第 1 日目でした。外務省の援助事業なので、まずはモスクワの日本大使館に挨拶に行き、大槻公使にお会いしました。すごく固かったです。いきなり、『日ロ関係はあまり良くない』といった話が始まりました。ただ、学生たちは全員コスプレ姿で行きましたので、かなりチグハグな感じがしました。公使からはこう言われました。「皆さんの一挙手一投足がロシアにおける日本のブランド価値を決めます。重々、行動には気を付けてください」。リーダーの横岡さんがこっそりつぶやきました。「これ、怒ってはりますかね？」「……」。

ご存知の通りモスクワは、毎日すごい交通渋滞です。車で移動するとひどく時間がかかるので、実はわれわれはその朝、コスプレ姿のままモスクワを地下鉄で移動してきたんですね（笑い）。見られるか見られないかというと、これは恐ろしく見られます（笑い）。大使館に着いたら入口でロシア人の守衛に止められました。「どこの劇団か？」とまず聞かれて、「劇団ではない」と答えたら、「劇団でないのなら、一体何だ？」と言われまして、なかなか説明がつかなくて困りました。で、まぁ、とにかく挨拶は無事終えました。

日本語学習者が 70 人もいる心理学部

そのあとモスクワ大学心理学部に行き、まずはジンチェンコ心理学部長に会って挨拶しました。驚きました。全然笑わないのです。「何なのかな、これは？」と思っていると、ツォンツェフ副学部長が出てきて、こちらはニコニコしている。

あとでわかったことですが、モスクワ大学内でもアニメサミットには賛否両論があったようです。しかし、結果的にはうまくいったので、最終日には学部長はうって変ってニコニコ顔で出てきました（笑い）。ジンチェンコさんはロシア保健大臣の補佐官を兼務している官僚でもあるので、ちょっと用心したのだと思います。

しかし、心理学部が学生サミットを引き受けたのはもう一つ意図があって、意外にもこの学部には 70 人を超える日本語履修者がいるのです。なぜ心理学部で日本語をやっているのか。ソ連時代に『外国人の心理を学ぶ』という目的で語学コースが充実されたからであると聞きました。サミットはモスクワ大学心理学部としても「おいしい」イベントで、日本の学生がモスクワに来て、日本語学習者である学生たちと語り合ってくれるというのは嬉しいことだったようです。

好きなアニメをひたすら語り合う（初日分科会）

サミット初日は学生の交流がメインで、リーダーの横岡さんが挨拶をして、土岐君という学生が「大人化するアニメ」というテーマで基調報告をしました。全体会議のあとは 3 つの分科会にわかれました。

第 1 分科会　日本側参加者はコスプレ姿

① 「進撃の巨人」という石原さとみ主演で今年実写化されたアニメについてひたすら語る分科会。このアニメ、実はロシアで一番の人気です。リアルタイムで日本と同時に流行っています。
② 週刊少年ジャンプに連載されているワンピースやナルトといった漫画・アニメについて語る分科会。
③ その他のアニメすべて、何でも語っていいよという分科会。

この 3 つの分け方はロシア側からすると、まさに『ドンピシャ』だったと言われました。

ロシアに全然興味のなかった学生を連れていきましたので、実際、何語でしゃべったか。外務省に提出した申請書にはこう書いていました。「日本語でもない、ロシア語でもない、アニメという第三の言語で交流する」。字面はいいけれど、実際、大丈夫かなと思っていたのですが、結果としては日本語学習者が多い心理学部だったから何とかなりました。各テーブルにかなり日本語が達者な学生が 2 人づつほどいて、ディスカッションはすべて日本語でやっていました。日本語がわからな人にはロシア語に直してくれて、それで十分に盛り上がったという形です。

ツォンツェフ副学部長に言われたのですが、ロシアに留学する日本人学生は、当たり前ですがロシア語を勉強しに行きます。ロシア語を一生懸命しゃべろうとしますから、向こう

2 日目の本会議の模様

からするとあんまりありがたくない。まったくロシア語ができない学生が来てこんなにありがたいと思ったことはない。ロシア人学生のよいプラクティスになる。これからもロシア語がわからない学生をどんどん送ってくれと言われて、意外な需要があるものだなと思いました。

こうして学生サミット初日は終了。校舎の屋上でウエルカムパーティと記念撮影を行いました。

学生寮はタイムマシン

今回学生たちが宿泊したのはモスクワ大学本館にある GZ 寮です。これは私が依頼しました。大学側からはもっときれいな寮が用意できるのに、本当に GZ 寮でいいのかと言われました。これは理由がありまして、今の 20 歳前後の若者はソ連を知りません。ソ連は歴史の中の存在で、歴史を勉強してない学生はさらに知りません。人を圧倒するあのスターリン建築の外観を学生たちに見せたかったというのもあるのですが、中は非常に老朽化しています。私は 18 年前にここで勉強したのですが、その時よりも一層ひどくなっていました。実際、ソビエト時代から改装されていないので、これはもうタイムマシンではないか、ここに行けばソ連を体験できるのではないかということで、学生たちに泊まってもらいました。案の定、評判は悪かったです（笑い）。評判は悪かったのですが、「ここに泊まったら、もうどこにでも行けるな」という変な自信も学生たちはつけました。

サミット本会議～盛り沢山のプレゼンテーション

翌 9 月 4 日はサミット本会議が開かれました。本会議に先立って、副リーダーの久保さんが三線でロシア国歌を演奏しました。モスクワ大学からはショーミン副学長、付属アジアアフリカ諸国大学のヴィコワ日本語学科長、日本大使館からも代表が来られて、挨拶をいただきました。

前日はディスカッションでしたが、この日はプレゼンテーションです。

第 1 報告は、「ロシアのアニメ」というテーマで、日本側から二人の女子学生が報告を行いました。ジブリの宮崎駿さんがどうしてアニメを作るようになったか。これは本人が言っていますが、ロシアの「雪の女王」（1957 年制作）というアニ

メを見て、アニメーターを志したということです。そんなエピソードも紹介しつつ、1920 年代のロシア・アバンギャルドやロシアのアニメが日本アニメの源流の一つになっているというプレゼンをしました。

第 2 報告は、リーダーの横岡さんが「日本アニメの最新事情」を話しました。これはもちろん、ロシア側にもとても評判がよかったです。

第 3 報告は、「日本のアニメにおけるロシア人の登場人物」というテーマで、ロシア側の学生が発表しました。日本のアニメにロシア人はよく出てくるんですね。3 つくらいのキャラクターがあって、女の人、軍人、強い性格の人物。こういう紹介がありました。

「あなたたち、それでも日本人ですか！」

休憩をはさんで後半には、ロシア最大のオタクサイトの運営者であるコルネーエフさんに、彼はソ連崩壊後の日本アニメのロシア流入過程をすべて目撃してきた人だと言われていますが、その歴史について話していただきました。「ロシアにおける日本のアニメの人気」という題で、とても興味深かったです。

次に、「スズダリ・アニメ映画オープンフェスティバル」の代表者ナタリア・ルクニフさんが話をしました。ロシアのアニメ行事を紹介する内容でしたが、これはロシア側学生には不評でした。こんなことを言われたんですね。この中で「木下蓮三」という人を知っている人はいますか？「山村浩二」さんを知ってる方はいますか？誰もいませんね。私も知りませんでした（笑い）。ナタリアさんは言いました。「あなたたち、それでも日本人ですか！」。日本人だったらこの 2 人を知らないと恥ずかしいと彼女は言うのです。昨日、大学の報告会で学生 400 人に聞きましたが誰も手があがりませんでした。「本当の日本人はどこにいるんだ」ということになってしまいますが（笑い）、実は、木下さんも山村さんも前衛アニメなんですね。一般受けするアニメではありませんが、そういうところにも目を向けていきなさいと説教されました。これも高野さんのアドバイスに添った内容で、ロシア人から日本アニメの、しかも誰も知らないことを語ってもらったのはよかったと思います。

コスプレイヤー10 名、赤の広場に立つ！

最後に、日系ロシア人で文化交流団体「ヤポンスキ・ドム（日本の家）」のイオリ・エンドウさんから「コスプレが日露文化交流にどれだけ役立っているか」という報告がありました。エンドウ氏は名古屋で開かれている「ワールドコスプレサミット」のロシア予選の主催者で、学生たちは関心深く聞いていました。

ただ、彼はこんなことを言いました。「日本ではコスプレをしてどこにでも行ける。外務省にも行ける。しかし、ロシアでは赤の広場にコスプレして行くと捕まります」。それはおかしいじゃないですかとすぐに反論しました。何故かというと、私たちは前日、コスプレ姿で赤の広場に行ってたんですね（笑い）。赤の広場では 9 月上旬のこの時期大きなイベントをやっていて、入りやすい雰囲気だったのですが、これを聞いて彼は何と言ったか。「歴史的な日だ」と言っておりました。「コスプレイヤー10 名、赤の広場に立つ！」ということになったわけです。

日露アニメ愛好者共同宣言

学生サミットは、「日露アニメ愛好者共同宣言」を採択して閉幕しました。

「我々日露両国アニメ愛好者は基本的人権の一つである知る自由を持つ国民として、以下のことを宣言する。
第 1、日露両国の好きなアニメ・漫画を読む自由を有する。
第 2、日露両国の好きなアニメ・漫画の情報を交換する自由を有する。……。アニメ・オタク文化の自由が侵される時は、日露両国のアニメ愛好者は団結してあくまで自由を守る。」

共同宣言を手にする日露の学生

現地ではいくつかのテレビ局からインタビューを受けました。ロシアのアニメ愛好者はちょっと心配事をかかえています。2012 年にロシアで「子供たちの健康と発育に害を及ぼす情報規制法」という法律ができました。この法律では、子供に害があるアニメは一定の時間帯に放映してはいけないとされています。実は、これでチェブラーシカも一部放映できなくなりました。何故かというと、ワニのゲーニャはタバコを吸うからです。ゲーニャがタバコを吸うシーンが放映できないために、チェブラーシカの多くのエピソードが放映できなくなっているそうです。日本のアニメも暴力的描写が多いという理由で、なかなか放映できなくなっています。もう一つは、ウクライナ情勢絡みで日本は欧米の対ロシア経済制裁に同調している。制裁を科している国へのロシアからの逆制裁で、日本の製品や情報も規制を受けるのではないか。もしかしたら、我々は日本のアニメが見られなくなるのではないかと心配しているわけです。

インタビュアーから次のような質問を受けました。「もし、あなたがロシアでそのような状況に出会ったら、どうされますか？」。共同宣言のあとです。『断固として団結して闘おう』と答えたいところですが、そんなことを言って今後入国禁止になったら困ります。『日本側としては、素晴らしいアニメをこれ

からも紹介し続けていくしかない』。面白くないですが、そのように回答させていただきました。

報告内容を日本語・ロシア語で事前配布

2 日目の全体会議ですが、日本側のロシア語での発表には日本人学生たちに日本語テキストを配布して、通訳はつけませんでした。ロシア側の報告については、心理学部のラエスキー講師が逐次通訳をしました。日本側のロシア語での発表と言っても学生はカタカナを読んでいるだけですから、念のためにロシア語版のテキストも資料として配布しました。カタカナ・ロシア語でも意外と通じたようですが、テキストで理解が深まり時間短縮にもなり、非常に効率がよかったです。事前に「ロシア新聞」（ロシースカヤ・ガゼータ）に紹介記事が出たことも効果がありました。新聞を読んで来たという学生が結構いました。

3 日目は観光の日です。ロシア側の学生が案内してくれるというので、私は学生たちを解き放ちました。夕方から赤の広場で行われるロシア国際軍楽祭「スパスカヤ・タワーフェスティバル」を見るために 6 時赤の広場集合にしましたが、学生たちは時間通りには来ません。来たらベロベロに酔っぱらっておりまして（笑い）、もちろん誰が先に飲み始めたかと言えばモスクワ大学の先生の方なのですが、まあともかくも仲良くなってサミット終了となりました。

文化交流に必要な「複眼的視点」

今日の話をまとめます。これまで実施されたクールジャパンのイベントと今回のアニメサミットはどこが違っていたのか。日本アニメの人気がロシアでも非常に高いことは知っていましたが、今回の訪問を通じて、現地でもそれがよく確認できました。本来なら日本のアニメだけをテーマにサミットをやってもよかったのかもしれません。しかし、アニメキャラクターについてはやっぱり世代や性別で受け止め方が違うわけですから、アニメ・オタクでない年配の大学職員などが聞きに来る可能性もありましたし、われわれの不注意で日露間に違和感を残すのはよくない。日本のアニメ文化の押し付けではなくて、あくまでも日露間の文化交流、相互交流であるということにこだわり続けました。均衡を保つラインとして考え出されたのが、ロシアのアニメについて日本側が勉強して発表する、自分の好きなアニメについてお互いに意見を交換するというスタイルだったわけです。

サミット初日はラウンドテーブルで、2 日目はプレゼンテーションでした。私は初日の方が盛り上がって良かったように見えたのですが、ロシア側参加者の意見は分かれました。日本語がよくわかっているロシア人学生にとっては初日の形式はよかった。お互いに意見交換できるし、日本語も使える。しかし、あんまり日本語ができない、あるいは日本アニメの知識が乏しい参加者にとっては 2 日目がよかった。じっくりと報告を聞いて理解を深めることができた。これで分かったことは、必ずしも一つの形式ではよくない。複数のラインを用意しておくことが必要だなということ。これはやってみてわかったことです。

「初めてのロシア」、これは意義深い

日本側の学生たちにとっては、ロシアのイメージは確実に変わりました。もともとロシアに興味がなかった学生たちです。私のゼミに入って、たまたま抽選でロシア経済班になった学生たちが始めたイベントです。学生たちは初めてロシアに行って、素直にショックを受け、素直に驚き、そして素直に感動していました。彼らにはもともとロシア像が存在していたわけではありませんが、今回の経験を通じて、かなりポジティブな、すごくいい国だというイメージが残りました。私も日露交流に携わる者として反省したのですが、今までは少しでもロシアに興味がある人を連れて行こうとしていました。それに対して、まったく興味のない人をロシアに連れて行くのはやっぱり意義深いなと思いました。モスクワ大学心理学部としては、ロシア語の分からない学生が来る方が日本語学習者のトレーニングになる。これも新しい発見でした。

日露の人的交流のさらなる拡大を

日露青年交流センターの人が言っていたのですが、おそらくプーチン大統領が来日しても、当面は何も決まらないでしょう。経済交流は今一つ進まないだろうし、北方領土返還交渉も進まないだろう。唯一決まる可能性があるのは、人的交流を進めるということになるのではないかと言っていました。その通りだと思います。しかし、自分のお金でロシアに行ってくれる人はそう沢山はいません。コストがかかるかもしれませんが、一定の予算を組んで若者をロシアに送りだす事業はこれからも是非続けていただきたいなと思います。

現在、日ロ関係は必ずしも良好とは言えません。しかし、今回の学生サミットで感じたのは、小さな文化レベルでの交流の積み上げが、国家間の最後の安全弁として機能するのではないかということです。何か突発的な危機が起こった時、危機を煽るのはお互いの無知と無理解です。学生たちは非常に短期間にロシアという国を知り、ロシア人を知り、個人の人脈もそれぞれに構築してきました。まったくロシアに興味のない若者を含めて、「無理やりでも」日露間の人的交流をさらに進めるべきだと考えます。

プレゼンで発表した土岐君という学生は来年 2 月からモスクワに留学する決意を固めております。これも学生サミットが生み出した成果であると思います。

最後に麻生大臣とお会いした時の言葉が印象的だったので紹介しておきます。

「日本文化の入口は歌舞伎でもいい。古典文化でもいい。しかし、いまや若者にとって日本文化の入口はアニメやゲームだ。同じアニメを見て同じ文化を共有すれば、国が違っても、いざ何か摩擦が起こった時でも、根底では理解しあえるのではないか。そういう意味でこのアニメサミットは意義深い。」 この言葉を締めくくりとしたいと思います。

カムチャツカ・アヴァチャ山 登山記 《その2》

白井 秀治（JIC 東京）

さて、JIC スタッフの中でも、自称登山好きの白井はアヴァチャ山ベースキャンプ（B.C.）にてテントを設営し、軽い昼食を摂りました。

日本の山でもテント泊の場合、テント内でコーヒーとチキンラーメンを食すると、どういう訳か果てしない元気を頂ける気がいたします。そして、テントの中から見るお山に「早く登りにおいでぇ～」と呼ばれている気がしてきます。不思議な現象ですよね。自然は本当に未知の力に溢れています。

本日の予定は、一時間の休憩を挟んでから、翌日の登頂を前にガイドさんと足慣らしで標高約 1,150m「ラクダ山」の往復です。B.C.の標高が 855m ですから約 300m の高低差です。私の登山経験では 1 時間の登りで約 300～350m の高低差をクリアしていますので、軽く見積もっても休憩込みで往復 2 時間ちょっとというところでしょうか。ところが、他社さんのツアー案内によると、このラクダ山の往復（無降雪期）に 4 時間を費やすところがほとんどです。ということはかなり手強いお山と予想されます。ちょっとドキドキ＆ワクワクですよね。テントから見えるラクダ山もアヴァチャ山も、はたまたコリャーク火山も雪を被っています。残雪のお山です。雪山登山歩行の基本中の基本“キックステップ”で登るというよりも、半分溶けかかっているシャーベット状の雪なので、ほとんどズボ足で（って、これももしかしたら登山用語なのかしら…）、登ってゆく感じでしょうか。とにかく雪の感触を確かめないと何とも言えません。

「ラクダ山足慣らしツアー」スタート時間 13 時を少し過ぎたころガイドさんが私のテントに来て、「準備はできていますか？」と声をかけてきました。もちろん今すぐにでもスタートしたい気分の私。「OK！」即答です。

ラクダ山足慣らしツアーは「楽勝」

ブーツの紐を固く縛り、ストックをいつものポジションまで伸ばし、アタックザックに忍ばせたハイドレーションのマウスピースをクリップ、グローブを装着…。その姿を見ていたガイドさんは、「このおっさん…妙な気合い入れていやがるな…」と少々呆れ顔。そんなの関係ありません。自分の登山スタイルは変更させないのが鉄則でございます。

13 時 10 分 B.C.スタート。

スタートしてから直ぐに思いましたが、まったくもって夏の富士山（5 合目～6 合目にかけて）を歩行するような感じでした。細かい溶岩石の上を歩く、あの感じですね。そして 30 分くらい歩いたでしょうか。途中何度か B.C.を振り返り自分

まずは足慣らしにラクダ山へ

の位置を地図無し、GPS 無しの目測のみで何となく測りながら思いました。距離は歩いているが標高は全然稼いでおりません。確かにラクダ山はどんどん近付いてきていますが…、少々拍子抜けの足慣らし。「ふ～ん」という感じです。

目の前に突如別の山小屋が表れました。ガイドさん曰く、山岳救助隊の小屋のようです。もしかして、ガイドさんと同じく山岳救助隊員も真っ青な瞳で妙にさわやかな青年集団なのでしょうか、…。要らぬ想像をしてしまいました。

「この雪渓に降ります。雪の上は歩けますか？」とガイドさんが傾斜のある雪面を指さしながら訊いてきました。そちらをチラ見して「もちろん、全く問題無し」とスマートに答えた私。『厳冬期の八ヶ岳の方が遙かに怖いじゃない』と心の中で思いました。このくらいの傾斜ならアイゼンも全くいりません。少し斜面を下りて雪の感触を確かめたところ予想通りのシャーベット。ズボ足です。こういっちゃなんですが「楽勝」です。

ガイドさんのあとを涼しい顔して下っていると…、ラクダ山に取り付いている日本人グループが見えました。軽く立ち休憩をしながら日本人グループを眺めていると、どうも手こずっている様子が見受けられます。シャーベット状の雪面に足をとられているのでしょう。なかなか進むことができないトレッカーが数人います。

ガイドさんが不安そうに私を見ました。すかさず、「日本の冬山も結構登っているから大丈夫だよ」と応えました。

30 秒くらいの立ち休憩の後、私とガイドさんはサクサクと雪面を歩き始めました。10 分も経たずに先ほどの日本人集団を追い越し、B.C.から見えるラクダ山の背面に回り込み、ちょっとした急登をクリア。ラクダ山のコル（稜線上のピークと

ピークの合間）に到着。左右に 30m くらいと 10m くらいの岩のピークが 2 つありました。

大きなピークの方をすかさず攻め込みクリア。速攻で降りてきて元のコルで軽い休憩。

B.C.に設営した自分のテントを遙か遠くに確認してタバコを一本深く吸い込みました。何とも至福な一時です。どんな山でも山頂で吸う一本のタバコはたまらないものです。

10 分くらいの休憩をとり、ガイドさんが「下山にとりかかりましょう」と一言。ストックを長めに調整してコルを後にしようとしたころ、先ほどの集団がコルに到着してきました。

「お疲れ様です」と日本語で言うと、「こんにちは」と返事がかえってきました。皆さま「山の人」でした。山ですれ違う時、どんなにつらくても笑顔で「こんにちは」は良い挨拶ですよね。個人的に山の「こんにちは」を翻訳すると、「こんにちは」＝「大丈夫」だと思います。

「こんにちは」（A さん）×「こんにちは」（B さん）
とした場合、これを訳すと
「大丈夫ですか？」（A さん）×「大丈夫ですよ」（B さん）
となります。みんながみんなすれ違う人への気遣いだと思います。

さて、挨拶を交わした後はさらに早いものです。スノーシューで歩くようにジャンプしながら一気にラクダ山を下山。再び雪渓歩きです。

何故かスイカの匂いがするピンクの雪

途中、ガイドさんが話してくれて実際に試してみたのですが、雪面をよく見ると、ところどころピンク色の雪があることに気がつきました。雪をすくって匂いを嗅ぐとなんとスイカの匂いがするのです。これには驚きました。どういう化学変化が起きているのか分かりませんが、間違いなくスイカの匂いがします。ガイドさんもよく解らないと言っていました。こういうヘンテコな話はやはりガイドさんとお山に登らないと見過ごすところです。為になるような話ではなく不思議な話ができる山岳ガイドは個人的に優秀な人だと思います。

雪渓歩きも終わり、砂礫のような溶岩を歩き B.C.のテントへ戻ってきて時計をみると 15 時 20 分。途中休憩 10 分くらいだったので、予想タイム通り 2 時間でラクダ山を往復してきました。ビンゴです。わたくしの登山経験そのままです。ガイドさんも、「普通、外国人登山客と歩くと時間をかけて歩くように心がけているけど、久しぶりに普通に歩けた」と仰っておりました。やりました！ガイドさんのお墨付きとでも言うんでしょうか。このようなお言葉を頂けると少々鼻息が荒くなってしまいますよね。でも舞い上がってはいけません。ここは山です。明日のアヴァチャ山登頂と無事の下山ができて初めて喜べるのです。

マーモットちゃん登場！

私のテントの前でコーヒーを飲みながら、カムチャツカの自然の話を聞いたり、日本の山や日本の高山植物のルーツ

などを話しているところに、何というゲストでしょう!! マーモットちゃんが数匹、テントの周りをあちこちと走りまわっています!! ガイドさんがポケットからナッツのかけらを軽く振りまくと、きちんと両手を使って食べています。しかも人間を恐れていないというか、慣れているというか、「もっと頂戴！」とでも言っているような愛嬌たっぷりの仕草でこちらを見ます。2 時間の短いハイクでしたが、何というご褒美でしょうか。身も心も癒されます。山に来て良かったと思える一瞬です。

翌日のアヴァチャ山登山ルートの確認と、7 時にスタートする他の日本人グループよりも少し早い 6 時 45 分に出発時間を決めてから、16 時 30 分頃にガイドさんは私のテントをあとにしました。

テントの楽しみは食事と瞑想？

さて、いよいよ楽しみの夕食です。献立は、サッポロ一番みそラーメン、さとうのご飯と激辛レトルトカレーに、ラクダ山ハイクのご褒美でパイナップルの缶詰です。持ってきた MSR のストーブでお湯を沸かし、時間をかけてゆっくりと食しました。

テントの中では時間がゆっくりと過ぎます。地図の確認や、手帳への日記とメモ。携帯で撮った写真やメモリに保存されている家族の写真などをいつもよりも時間をかけて見ることができます。何もせずに寝ころびながら振り返る時間と、来るべき時間の移動点を感じることができるのもテントに一人でいるときです。大げさ過ぎかもしれませんが、「生きているんだなぁ」と思える時間と並行しています。テントとは不思議な個室ですね。

そんな瞑想にふけってからどのくらいの時間が流れたでしょうか。遠くで何となく聞こえていた風の音が今度はテントを激しく叩きはじめたと同時にかなり強い雨が降ってきました。「えぇ～！！天候悪化かよぉ！！」、あえて一人で声に出して、レインウエアを着込み外にでました。風も多少あったので、もう一度テントの張り綱のテンションを確認しました。

やれやれです。天候には敵いません。少しでも回復を待つだけです。

再びテントに戻り、雨と風がテントを叩く音を聞きながらゆっくりと流れる時間に意識を並行させていると、オブラートに包まれるような柔らかな眠りの扉が開いてゆきます。私は扉

の中に溶け込みました。

アバチャ山にかかる笠雲、山頂は極寒？

午前 4 時 45 分に起床。いつの間にか朝がやってきていました。

降っていた雨はやんでいるようですが、代わりに昨晩よりも強い風が吹いているのが分かります。とりあえず、身体を温めるためにコーヒーを入れます。MSR の軽油燃料ストーブはパワーがあるので、500cc の水も直ぐに沸くからとても便利です。コーヒーカップを持ちながらテントのジッパーを開けそろりと本日の目標アヴァチャ山を見てみると、何と言うことでしょう！頂上付近に笠雲が見えるではありませんか!! 山をやっている人ならお分かりかと思いますが、笠雲がかかる場合、やたらと強い風（風速 20m以上の風）が吹いていると判断できます。困ったものです。雨が無いのが救いですが、山での風はとにかく体温を簡単に下げ、体力をみるみるうちに奪い取る厄介者です。

テントに携行温度計を吊るしておいたので見てみると、現在午前 5 時過ぎでプラス 8℃。B.C.と山頂の高低差が約 1900m。気温は 100m 上昇する度に 0.65℃下がるので、現在の山頂付近の温度は 8－（19×0.65）＝－4.35℃となります。そして、風速 1m/s ごとに体感温度は 1℃下がると考えられています。笠雲がかかるくらいなので、経験的に頂上付近の風速は 20m 以上と考えてよいでしょう。…ん？ というと…、なにぃ！？ 単純計算すると頂上付近の体感温度はマイナス 25℃くらいってこと？ 私、夏用のレインウエアしか持ってきてないじゃない。いきなりテンションが下がってしまいます。それでも、考え直しましょう。頂上到着時には気温も上がっているはず。行ったことはないけどヒマラヤなどとは比較にならない標高なので、なんとかなるでしょう。そうなんです。何とかなるんです。理屈じゃないんです。そして、危険を感じたら下山すれば良いのです。それだけです。

朝食はレトルトカレーとさとうのご飯大盛り&フリーズドライのスープです。エネルギー充填 70％位でしょうか。100％にしないところが山の基本。行動中に飲むゼリーやチョコレートなどでカロリーを補給します。

前日同様にハイドレーションに水を貯め込み、ポケットには飴玉数個。アタックザックには行動食、防寒着、万が一の強い味方のツエルトを詰め込み準備が整ったのは 6 時 40 分頃。テントから出てストレッチをしているところにガイドさん登場。

「雨は止みましたね」と全くもってガスで何も見えない山頂を見ながらガイドさんは言いました。

「風が強そうですけど…。昨日の雨が雪になったんじゃないかな？アイゼンは必要ですかね」と私。

「先週も登ったけど、今年は雪が多いけど凍っていないからアイゼンは必要ないでしょう。風はちょっと気になりますね」

「了解しました。では、アイゼンは持って行きませんね」

「大丈夫ですよ」

いざ出陣！アバチャ登山スタート

06 時 50 分。いよいよアヴァチャ登山の始まりです。B.C.に戻ってくるのは何時間後になるのか、ちょっと予測できません。

スタート直後に、ガイドさんから休憩のタイミングを尋ねられました。60 分歩いて 10 分休憩のサイクルで行きましょうと答えたところ、ガイドさんの話では、ロシアでは一般的に 45 分歩きの 15 分休憩とのことです。一般的かどうかは別として、内心ずいぶんとゆったり歩くんだなと思いました。

歩き始めてから 30 分くらいして、アヴァチャ山のなだらかな懐に入りました。山頂方向を眺めると、ガスが降りてくる中 10 人以上の登山パーティが遠くに見えました。そして、日本でもおなじみの「這い松帯」がこのカムチャツカ半島では標高わずか 1000m 付近（カシオのアウトドア腕時計＝プロトレック表示）から始まります。

這い松帯を超えた途端にものすごい向かい風を身体に受けました。稜線ともまだ言えないなだらかなルートで、まるでヘリコプターのダウンバーストを受けているのではないかと思うほどの強烈な風です。身体は抑えられ、足を前に出すのがやっと。風上に向かっては呼吸すらできません。恐らく風速 25m/s 以上でしょう。私の前を歩くガイドさんも身体をねじらせながら何とか歩いています。

「こりゃ、大変なことになるぞ…」と声を出してみましたが、風の音に完全に消されてしまいます。風をまともに受けながら 30 分くらい、ちょうどスタートして 1 時間くらい経った頃でしょうか。目測で 200mほど先に大きな岩が転がっていました。ガイドさんが振り向き、「あの岩のところで休憩します」と言ってきました。向かい風の私は声が出せない状態なので、親指を立てて OK サインで応えました。

岩陰で、ガイドさんは「歩けますか？」と訊いてきました。

「まだ、身体が浮くような風ではないから問題ないけど、ペースは遅くなると思う」と煙草に火を付けてから返答。

「私たちの 15 分後に出発した日本人グループが全然見えないですね」B.C.方面を見ながらガイドさん。

「そう言えば、見えませんね」

「知り合いになりましたか？」

「いや。まだですよ。たぶん、ならないと思います」

「それはずいぶんと寂しいじゃないですか」

「そんなこと無いですよ。向こうは団体だし、私は一応仕事で来ていますしね…」

一瞬、不思議そうな顔で私を見たガイドさんでしたが、気を取り直した感じで「そろそろ、行きますか？」と言いました。

「そうしましょう！」

二人とも立ち上がり、再びザックを背負い、ストックを手にしましたが、強烈な風をまともに受けて、ガイドさんともどもよろめきあってしまいました。（つづく）

ロシアからモンゴルへ、再訪

―2015 年 7 月 30 日　バイカル湖

金井　義彦(JIC 東京)

また同じような時間に同じような出発時刻のロシア国内線に乗ろうとウラジオストクの空港カフェで待っている。今はヤクーツク行きのフライトを待っているが、ひと月ほど前にはここでイルクーツク行きのフライトを待っていた。イルクーツクに深夜 1 時頃に着くから結構しんどかったが、今日も同じような時間にヤクーツクに到着予定、、、

さて。イルクーツクの話。

文字通り「再」訪で、一度目はウラジオストクからシベリア鉄道で 3 泊 4 日過ごしてイルクーツクを訪れた。初めて行ったロシアだった。季節は 2 月で、寒過ぎて気温を感じているのかどうかもよくわからないくらいだったが、買ったアイスクリームを外に放置していても溶けないような気温ではあった。イルクーツクから向かったバイカル湖の表面はどこまでも凍っていて広く、白く美しかった。凍った湖面に立って、足元の氷の下にある湖水のゆれる不思議な音を聞いていると、自分が居る場所がどこかわからなくなるような、自分という存在が消えてしまっているような気持ちになった。「今度は夏に来たいな。凍ってない青いバイカル湖を見たいな」そう思い続けて 10 年経った。

幸運にも夏にイルクーツクを訪れてバイカル湖を見るチャンスがやってきた。空港に着いたのは深夜だったが、ホテルでいつまでも朝寝坊している時間は無い。今夜の列車でイルクーツクを発つため、間に合うようにイルクーツクとバイカル湖の往復をしなければならない。ホテルで早めに朝食を済ませ、バイカル湖畔の村リストヴャンカ行きマルシュルートカのたまり場へ。車は 6 割方座席が埋まっている。しばらく待っていれば人数が集まって出発するだろうと思っていたが、空席のあるままでマルシュルートカは出発した。45 分ほどでバイカル湖博物館前に到着。リストヴャンカの終点まで行かずにそこで降り、リフトで展望台を目指す作戦。マルシュルートカの窓から見えていたバイカル湖は凍っていない。見たかったバイカル湖の姿に嬉しくなって湖周辺をうろうろして写真を撮っていたらトイレに行きたくなってしまった。博物館は 8 割の中国人観光客と 1 割の日本人客、他 1 割でごった返しており、そのグループに紛れて博物館のトイレを使わせてもらった。緊急トイレ事態だったので中国人混雑に感謝した。行けて良かった。

その後リフトを目指して地図を見ながら歩いたが、持ち前

の方向音痴感が発揮され自分の居場所がわからない。数人に尋ね、リフト乗り場にたどり着けた。いわゆるスキー場のリフトがぐるぐる回っており、それにタイミングを合わせて乗る。高所が苦手な人は避けた方が良いかもしれない。人はほとんどいなくて、頂上でひと家族がいただけ。リフトを降りた後に展望台まで 5 分ほど山を下って歩く。見えた。青い、凍っていないバイカル湖が。大げさな言い方かもしれないが、夢が叶ったんだなと思った。

下りリフトに乗る時は係員がお茶しておしゃべり中。リフトに乗るのを手伝ってくれない、というか「リフト券をチェックしなくていいのか？」という状況で、自分でタイミングを合わせて勝手にリフトに乗る。下りはすれ違う人がたくさんいた。皆笑顔で挨拶をしたり手を振ったりして楽しい。一応「ズドラーストビチェ」と言っていたのだが、ほとんどドイツ人のようなので「グーテンタック」と「チュース」をくり返していた。僕へは「ニーハオ」と言われた。

さて歩いてお腹が空いた。やっぱりバイカル湖に来たので名物の魚、オームリを食べよう。歩いてレストランに入ると「予約客がいっぱいで時間がかかるけどいいか？」と確認してくれた。なるほど。「予約席」のテーブルがたくさんある。時間がかかるのはマズいので確認してくれたことに感謝し次のレストランを目指す。そこはちょっとさびれた雰囲気だったが、ロシア人のお客さんが数人入っていたので地元雰囲気と思い、席に着く。バイカル湖を見ながらおいしいキノコスープとオームリのムニエルを食べ、大満足の昼食だった。店内に流れているテレビ、MTV の音楽がガンガン流れているのもロシアっぽいではないか。

夏のバイカル湖は冷たいのを我慢して泳ぐ感じで、水着で日焼けしている人がちらほら。日射しは夏のものなので歩いていると汗をかく。リストヴャンカ、ホテル『マヤーク』前のバス停まで歩いて疲れたので、キオスクでモヒートを買って飲む。

帰りは待機しているマルシュルートカに乗り込もうとしたら

「チケットはあるか？」と聞かれ、乗せてもらえなかった。先ほどチケット売り場で「次のバスは売り切れだよ」と言われていたのだ。すると隣で待機していたマルシュルートカのドライバーが声を掛けてくれたのでそちらに乗り込む。まぁ、次の次くらいで 30 分は待つ覚悟をしていたが「次のバス」より先に出発した。マルシュルートカの出発時間は往復ともラッキーだった。市内に入り、窓からチャイナタウンのようなエリアが見える。行ってみると、漢字のある世界、人の多いごちゃごちゃした世界の一部があった。ふらふら歩いていると心惹かれる店が。ウイグル料理の食堂。せっかくロシアにいるからロシア料理を食べるべきだ、、、と思っていたが、ラグマンが大好きなのでやっぱり入店してしまう。ラグマンはいつどこで食べても本当においしい麺料理。食べ終わってチャイを飲んでいると、そばにいた男が話しかけてきた。ずいぶんフレンドリーだな、と思っていると彼はウズベキスタン、サマルカンドの人だった。なんだかいろいろ話して、こんな店に入るのも悪くなかったなと思った。

イルクーツクに戻ってきて、とても気になる場所があった。『130 地区』。10 年前には無かった場所だ。列車の出発まであまり時間が無いが急いで行ってみる。突然の西ヨーロッパ雰囲気の街並み、いや、敢えてパリ雰囲気と言おう。「シベリアのパリ」と呼ばれているイルクーツクは、現代に本当にヨーロッパの街の通りを作ってしまっていた。レストラン、カフェ、巨大なショッピングモールが建っている。ウラジオストクのモールなどは比較にならない。大きく、広く、テナントの多いモールがあった。その地区の西ヨーロッパ雰囲気に呆然としているとイルクーツクを去る時間になってしまった。

再び訪れたイルクーツクとバイカル湖は、「久しぶり」と夏の顔を見せてくれたが、最後に見送ってくれたのは全くの別人だった。そして、イルクーツク発シベリア鉄道 4 人寝台コンパートメントの同居人はロシア人家族。おばあちゃん、お母さん、娘 7 歳の 3 名。おばあちゃんと娘は興味もあってかガイジンの僕を構ってくれるが、お母さんは気味悪がっているようだ。ひと晩お邪魔してすみません。おやすみなさい。
（つづく）

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

27 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 27 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,000 人以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、自分ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えて

ロシア語長期留学4月生・募集中

締切間近です 今すぐお申込みを!

期間：2016年4月1日より10ヶ月

締切: 2016年1月15日(金)

モスクワ国立大学 846,000 円（授業料 10 ヶ月）
ｻﾝｸﾄ･ﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立大学 772,000 円(授業料 10 ヶ月)
ｳﾗｼﾞｵｽﾄｸ極東連邦大学　388,000 円（授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。＊要、事前予約
東京事務所　平日 9:30-18:00　03-3355-7294
大阪デスク　平日 9:30-16:00　06-6944-2341

◇◆編集後記◆◇

▼2016 年はどんな年になるのでしょうか。願わくは、シリアと中東に平和が訪れ、ロシアと欧米諸国との関係改善が進むことを！▼今号は、おなじみのスタッフ新年あいさつです。JIC スタッフは多士済々。今年もロシアと旅行・留学のスペシャリストとして、全力で業務に取り組みます▼日露協会での岡部芳彦・神戸学院大学准教授の「日露アニメ学生サミット」の報告は、早口ながら絶妙の語り口で、笑いが絶えませんでした。その準備、企画内容、実施段階での工夫の数々には学ぶべきことがたくさんあるように思われます。▼今年は日ソ共同宣言 60 周年。日ロ交流の一層の活性化を期待します。(F)